

[かな-2] 現行「送りがながなをつけ方」通則一覧 その1

○で囲んだ数字は通則の番号を示したものである。
()内は告示の各通則の下に掲げてある語例である。

	「…を送る。」または「送りがなをつけない。」〔本則〕	「ただし…を送る。」〔例外〕	「ただし…てもよい。」〔許容〕
名詞	⑩送りがなをつけない。 《頂, 帯, 趣, 量, 隣》	⑩次の語は、最後の音節を送る。 《哀れ, 後ろ, 幸い, 互い, 半ば, 情け, 斜め, 誉れ, 災い》	⑩送りがなを省いてもよい。〔誤読難〕 ①読のおそれのないもの。《現(わ)れ, 行(き)い, 断(わ)り, 聞(き)え, 向(む)い, 起(こ)り, 終(わ)り, 代(わ)り…》 ②送りがなをつけないてもよい。〔慣用〕 ③が固定していると思われる次の語。《卸, 組, 恋, 志, 富, 恥, 話, 光, 舞, 巻, 厘, 次》 (注意) 次のように()の中の送りがなを省いてもよい。〔表に記入したり, 記号的に用いたりする場合。〕 晴(は), 曇(り), 問(い), 答(え), 終(わり), 生(まれ), 押(す)
	⑪活用語の送りがなをつけない。〔活用語から転じた感じの明らかなもの。〕 《動き, 戦い, 残り, 苦しみ, 近く, 遠く》		
	⑫「つ」を送る。〔数をかぞえるときの「つ」。〕 《一つ, 三つ, 三つ》		
代名詞	⑬送りがなをつけない。《彼, 彼女, 何》		
副詞	⑭最後の音節を送る。 《必ず, 少し, 再び, 全く, 最も》	⑬次の語は、その前の音節から送る。 《直ちに, 大いに》	
動詞	⑮活用語尾を送る。 《書く, 読む, 生きる, 考える》	⑮次の語は、活用語尾の前の音節から送る。 《表わす, 著わす, 現われる, 行なう, 脅かす, 異なる, 断わる, 賜わる, 群がる, 和らぐ》	

	「…を送る。」または「送りがないを」つけ ない。」〔本 則〕	「ただし…を送る。」〔例 外〕	「ただし…でもよい。」〔許 容〕
形 容 詞	⑦活用語尾を送る。《曇い、白い、若い、高い》 「し」から送る。〔語幹が「し」で終わるもの。〕 《新しい、美しい、苦しい、珍しい》	⑦次の語は、活用語尾の前の音節から送る。 《明るい、危うい、大きい、少ない、小さい、冷たい、平たい》	
形容動詞	⑨活用語尾を送る。《急だ、別だ、適切だ、積極的だ》 ----- ⑬「た」「か」「ら」「やか」「らか」から送る。〔これらを含むもの。〕 《新ただ、静かだ、確かだ、平からだ、穏やかだ、明らかだ、朗らかだ》		

現行「送りがなのつけ方」通則一覧 その2

	「…によって送る。」 [本 則]	「ただし…を送る。」 [例外]	「ただし…でもよい。」 [許容]
名 詞	○「さ」「み」「げ」 が形容詞、形容動詞 についたもの	⑱ その形容詞、形容動詞の送りがなによ って送る。《大きさ、正しさ、明 るみ、惜しげ、確かさ》	⑲ 送りがなを省いてもよい。 [誤読・難読のおそれのない もの] 《帶止(め)、金詰(め)り、 編(み)物、打(ち)切り、取(り)締(め) り、向(む)い合(あ)せ…》
	○活用語を含む複合名 詞	⑲ 活用語の送りがなによって送る。 《心構え、日延べ、教え子、大写し、 歩み寄り…》 ⑳ 原則として送りがなをつけない。 [慣用が固定していると認められるも の。] 《献立、番付、両替、小包、植木、請 負、割引…》	
副 詞	○他の副詞 } ○名詞 } を含むもの ○活用語 }	⑳ 含まれている語の送りがなによ って送る。 ㉑ 《必ずしも、幸いに、互いに、斜 めに、絶えず、少なくとも…》	
動 詞	活用しない部分に ○他の動詞(準ずるもの) } を含 ○形容詞 }	㉒ 含まれている語の送りがなによ って送る。 ㉓ 《浮かぶ、聞こえる、計らう、	

		「…によって送る。」 [本 則]	「ただし…を送る。」 [例外]	「ただし…てもよい。」 [許容]
動 詞	○形容動詞 ○名詞	起こす, 定まる, 近づく, 怪しむ, 確かめる, 黄ばむ…)		(注意) 次のように() の中の 送りがなを省いてもよい。[特 に短く書く必要がある場合] (打(ち)切る, 繰(り)返す, 差(し)上げる)
	○動詞と動詞が結びつ いた動詞。	⑥ それぞれの動詞の送りがなによって 送る。 (移り変わる, 思い出す, 流れ込む, 譲り渡す)		
形 容 詞	活用しない部分に ○他の形容詞 } を含む ○動詞(準ずる) } もの ○形容動詞 }	⑧ } 含まれている語の送りがなによっ ⑨ } て送る。 ⑩ } (重たい, 憎らしい, 勇ましい, 輝かしい, 頼もしい, 喜ばしい, 恐ろしい, 暖かい, 細かい, 柔ら かい…)		
	○動詞と形容詞が結び ついたもの	⑪ それぞれの語の送りがなによって送 る。 (聞き苦しい, 待ち遠しい)		
形 容 動 詞	活用しない部分に ○形容詞 } を含む ○動詞(準ずる) } もの	⑭ } それぞれの語の送りがなによって ⑮ } 送る。 (清らかだ, 高らかだ, 同じだ, 晴れやかだ, 冷やかだ)		

〔かな-4〕,〔総-10〕 各種「送りがなのつけ方」一覧表

以下の表は、「送りがな対照表」〔かな-1〕と「送りがなのつけ方・方針一覧」〔かな-3〕とを一つの表にまとめ、各種送りがなの通則の部分の比較と、さらにその語例の送りがなのつけ方の異同とを一覧できるようにしたものである。

1 比較対照した資料は、次の7種である。

A 現行のもの

- ① (告示) 「送りがなのつけ方」内閣告示第1号 (昭和34年)
- ② (朝日) 「送りがなのつけ方」朝日新聞社 (昭和37年)
- ③ (法令用語) 「法令用語の送りがなのつけ方」内閣法制局 (昭和35年)

B 過去のもの

- ④ (公用文) 「公文用語の手びき」総理庁・文部省 (昭和22年)
- ⑤ (中等国語) 文部省著作教科書「中等国語」(昭和23年)
- ⑥ (案) 「送りがなのつけ方(案)」文部省国語調査室 (昭和21年)
- ⑦ (送仮名法) 「送仮名法」国語調査委員会 (明治40年)

2 とりあげた語は、告示「送りがなのつけ方」通則に例示された語である。

3 表中の略号は、右に示した表のとおりである。

4 通則部分のぬきがきは、ほぼ原文のとおりにしたが、「説明」「例」などは、省略したところもある。

5 〔かな-1〕および〔かな-3〕でとりあげた新聞協会の「新聞用語集」、NHKの「用字用語辞典」は、告示との異同が少ないので、今回は省略した。ただし、名詞の一部分には、参考のため、この両者の用例をつけ加えてある。

6 他の資料に例示してある語例で、告示で掲げてある以外のものは参考のため、〔他の例語 →〕として、その一部を示した。

表中の略号	
○	告示の送りがなに同じ。
/	資料にその語が例示されていない。
[]	送っても、送らなくてもよい。
()	告示の例語とは別語であるもの。
※	参考

告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
<p>1) 活用語およびこれを含む語は、その活用語の語尾を送る。</p> <p>2) なるべく誤読・難読のおそれのないようにする。</p> <p>3) 慣用が固定していると思われるものは、それに従う。</p>	<p>この用例を定めた基本的な考え方は、「新送りかな」の送りすぎの緩和と、今日までの「慣用」の尊重ということであるが……</p>	<p>昭和34年7月11日内閣告示第1号をもって公示された「送りかな」によって作成した。</p>		<p>「この教科書の送り仮名は、なるべく仮名を多く送ること、同じ漢字にあて音節を一定しておくなどがその特色である。」 ＜国研「資料集」から＞</p>		<p>送仮名法4綱領</p> <p>1) 活用語ノ語尾変化ヲカキアラハスコト。</p> <p>2) 語ノ末ニ附属スル助詞、助動詞ヲカキアラハスコト。</p> <p>3) 語ノ末ニ含まルル接尾語ヲカキアラハスコト。</p> <p>4) 漢字ヲ音読スルモノハ漢字以外ヲカキアラハスコト。</p>
方						
針						

第1 動 詞

	告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動 詞	1 動詞は、活用語尾を送る。		1 動詞は、活用語尾を送る。	第1 1 動詞は、活用語尾を送る。	第1 1 動詞は、活用語尾を送る。	第1 1 動詞は、活用語尾を送る。	第1 則 漢字ヲ以テ活用語(動詞、形容詞、助動詞)ヲ書キアラハストキハ語尾ノ活用スル部分ヲ送仮名トナスベシ。
書 く			○	○	○	○	○
読 む			○				
生 ぎ る			○				
考 え る			○				
他の例語 →	掲げる, 免れる 交える, 混ざる			起きる, 受ける, 研究する, 浮ぶ, 携える, 捕える, 振う, 荒す, 起す, 尽す, 積る, 果す, 基く, 司る, 向う, 分る	起きる, 受ける, 来る, 研究する	起きる, 受ける, 勉強する	起ク, 告グ, 死ス, 思フ, 学ブ, 焼ク, 立ツ, 願フ, 願ハク

告 (昭34) [現行]	示 (昭37) [現行]	朝 (昭35) [現行]	法令用語 (昭22)	公用文 (昭23)	中等国語 (昭21)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
動詞一般	ただし、次の語は、活用語尾の前の音節から送る。	1 次の動詞に限り、送りなを「新送りがな」以前の形に戻し、次のように書く。	1 ただし、次の語（自動詞又は他動詞をそれぞれ他動詞又は自動詞に転用した場合における対応する語を含む。）に限り、活用語尾の前の音節から送る。	第1 2 活用語尾を送るだけでは、誤読・難読のある動詞は、その前の音節から送る。 (ロ) 音読されるおそれのあるもの	第1 3 活用語尾を送るだけでは、読み誤られるおそれのある動詞は、その前の音節から送る。 [注意]「群がる」「群れる」との関連が考えられるが、「ら」を送らない。	第1 2 活用語尾を送るだけでは、誤読・難読のおそれのある動詞は、その前の音節から送る。	
	表わす （「表す」では	○	○	○	○	○	表ス

	告示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
動	「ヒョウす」と誤読。						
	著わす(「著す」ではチョすと誤読。「表わす」と形をそろえた。)	○	○	○	○	ス 著	
詞	現われる(他動詞「現わす」を「表わす」に形をそろえた。)	現れる	○	○	○	○	現 ル
	行なり(「行った」のとき「いった」と誤読。)	行　　う	○	行　　う	行　　う		行ハル
般	脅かす(「脅す」では難読,「おどす」と誤読。)	○	○	○	○		
	異なる(「異にする」に合わせた。)	異　　る	○	○	○	異[な]る	
	断わる(「断った」のとき「たった」と誤読。)	断　　る	○		断　　る		断 ル

告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
賜わる(「賜る」では難読, 文語「賜ふ」との関連。)	賜る	○	○	○	○	賜ル
群がる(「群る」では難読, 「群れる」と誤読。)	○	○	○	○	○	○
和らぐ(「和ぐ」では難読。)	○	○	○	○	○	○
2 活用しない部分に他の動詞の活用形またはそれに準ずるものを含む動詞は, 含まれている動詞の送りがないことによって送る。	1 次の動詞に限り, 送りがないを「新送りがな」以前の形に戻し, 次のように書く。	(告示に同じ。)	第1 2 活用語尾を送るだけでは, 誤読・難読のおそれのある動詞は, その前の音節から送る。 (イ) 自動・他動の対応のあるもの	第1 2 自動・他動の対応のある動詞は, あい対応するものの活用語尾と関係のある音節から送る。 また自他の対応は見られなくても, 他の動詞の	第1 3 活用しない部分に, 他の動詞の活用形をふくむ動詞は, そのふくまれるものの語尾から送る。 4 活用しない部分	第2則 活用語ノ活用セザル部分ニ他ノ語ノ活用形ヲ含ムモノハ、送仮名トシテ之ヲ書キアラハスベシ。 (1) 動詞ノ中ニ他ノ動詞ノ活用形ヲ含ムモノ。

動 詞 一 般

他 の 動 詞 と 関 係 の あ る 動 詞

告 (昭34)	示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
他の動詞と関係のある動詞					<p>活用を含むものは、その含まれているものの語尾から送る。</p> <p>ただし、次の動詞は、慣用に従って活用語尾だけを送る。</p> <p>[注意] 2 「連ねる」「連なる」は、「連れる」との関連が考えられるが、「ら」を送らない。</p> <p>[注意] 3 「交る」「交える」は「交ぜる」との関連が考え</p>	<p>に、他の動詞の活用形に準ずるもの(語尾の音)が変化してあるもの(の)をふくむ動詞は、そのふくまれてあるものの語尾から送る。</p> <p>[注意] 右において誤読・難読のおそれのないものは、そのふくまれてあるものの語尾を送らない。</p>	

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
						られないこと もないが「じ」 を送らない。		
他の動詞と関係のある動詞	他の例語 →			交わる(交える), 代わる(代える), 混じる・混ざる (混ぜる)	伝わる(伝える), 肥やす(肥える), 減ぼす(減びる), 加わる(加える)	合う(合わせる), 明け 合(合わせる), 明 ける(明かす, 明 く), 上げる(上 がる), 預ける (預かる), 集め る(集まる), 荒 れる(荒らす)	伝はる, 喜ば す, 浮ぶ, 押へる, 捕へる, 振ふ, 向ふ, 分る	驚カス, ル, 老 イバム
	浮かぶ(「浮く」の 未然形を含む。)	浮 ぶ		○	浮 ぶ	○	浮 ぶ	○
	動かす(「動く」 の未然形を含む。 「動す」は難読。 慣用があった。)	○		○	○	○	○	○
	及ぼす(「及ぶ」 の未然形を含む。 「及す」は難読。)	○		○	○	○	○	○

告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
語らう(「語る」の未然形を含む。「語う」では難読。慣用があった。)	○		○	○	○	○
聞こえる(「聞く」の未然形を含む。初等教育で使 用。)	聞こえる		聞こえる	聞こえる	聞こえる	
積もる(「積む」の未然形を含む。)	積もる	○	積もる	○	積もる	積もる
照らす(「照る」の未然形を含む。慣用があった。)	○	○	○	○	○	○
計らう(「計る」の未然形を含む。「計う」では難読。慣用があった。)	○	○	○	○	○	
向かう(「向く」の未然形を含む。ある程度の慣用があった。)	向かう	○	○	○	向ふ	○

他の動詞と関係のある動詞

告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
起こす(「起きる」の語幹の「お」に合わせた。初等教育で使用。)	起す	○	起す	起す	起す	起ス
起こる(上と同じ。)	起る	○	起る	起る	起る	起ル
終わる(「終える」の語幹の「お」に合わせた。初等教育で使用。)	終る	○	終る	終る	終る	終ル
悔やむ(「悔いる」の語幹「く」に合わせた。初等教育で使用。)	悔む		悔む	悔む	悔む	悔ム
定まる(「定める」の語幹「さだ」に合わせた。慣用があった。)	○		○	○	○	○
3 活用しない部分に形容詞の語幹を含む	(告示に同じ。)		第1 3 他の品詞と関係のあ	第1 4 他の品詞と関係のあ	第1 5 活用しない部分	第2則 活用語 ノ活用セザル 部分ニ他ノ語

他の動詞と関係のある動詞

告 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
動詞は、その 形容詞の送り がなによって 送る。			<p>る動詞は、 その品詞の 送りがなを 基準として つける。</p> <p>(4) 形容詞と 関係のある もの</p>	<p>る動詞は、 その品詞の 送りがなの 基準に従っ てつける。</p> <p>(形容詞と関 係のあるも の)</p>	<p>に形容詞 の語幹を ふくむ動 詞は、そ のふくま れてゐる もの以外 をかな書 きとする。</p> <p>語幹が 「し」で終 るものは、 「し」から 送る。</p>	<p>ノ活用形ヲ含 ムモノハ送仮 名トシテ之ヲ 書キアラハス ベシ。</p> <p>(2) 動詞ノ中ニ 形容詞ノ活用 形ヲ含ムモノ。</p>
近づく	○ (近づき)	○	○	/	○	/
遠のく	○	○	○	○	○	○
赤らめる	/	/	○	○	○	○
重んずる	○ (重んじる)	○	○	/	○	/
怪しむ	○	○	○	○	○	○
悲しむ	○ (悲しみ)	/	○	/	○	○

形容詞と関係のある動詞

告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
形容詞と関係のある動詞	○		○	○	○	○
苦しがる 他の例語→			薄らぐ	甘やかす, 強まる, 弱める		染シム, 悲シブ, 全クス, 辱クス, 全ウス, 悲シガル, 嬉シガル
形容動詞と関係のある動詞		(告示に同じ。)			第1 6 活用しない部分に副詞をふくむ動詞は, 副詞として送りがなる。	
確かめる	○	○	確める	○	○	確 ム
名詞と関係のある動詞		(告示に同じ。)	第1 3 他の品詞と関係のある動詞は, その品詞の送りがなを基準として	第1 4 他の品詞と関係のある動詞は, その品詞の送りがなを基準に従っ	第1 7 活用しない部分に, 名詞をふくむ動詞は, そのふく	第15則 オヨソ 単語ニ当テタル漢字, 僅カニ其ノ一部分ニ該当セリト見ユル場合ニハ, 其ノ他ハ送仮名トシテ

	告 (昭34) [現行]	示 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
名詞と関係のある動詞				つける。 (ロ) 名詞と関係のあるもの	てつける。 (名詞と関係のあるもの) [注意]「みのる」は「み」(実)との関連があるが、慣用に従って「実る」と活用語尾だけを送る。	まれてゐるものの以外の部分をかな書きとするとする。 [注意] 象どる、司どる貫ぬく、伴なふ、荷なふ、実のる、画基づく、画がく、などは、それぞれ漢字を、動詞を表はすものと見て、活用語尾だけを送っても差支へない。	書キアラハスベシ。
黄ばむ					○	○	○
春めく						○	○

告 (昭34) [現行]	示 (昭37) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
先んずる	○ (先んじる)	○	○	○	○	○	○	○
横たわる	○	○	○	○	○	○	○	○
他の例語 →				基づく	先だつ	味わう、色づく、 傷つける、貫ぬ く、伴なう、荷 なう、基づく、 指さす	指さす、先だ つ	指サス、棹サス、 晝ガク、鞭ウツ
名詞との関係ある動詞	6. 動詞と動詞 とが結びつい た動詞は、そ れぞれの動詞 の送りがな によって送る。	3. 動詞と動詞 とからなる複 合動詞は、上 の語の送りが なを省くこと が多い。 [次のような語 は、上の語の送 りを省かない。] ① 上の語が3 音以上のとき。 ② 難読・誤読 のおおそのあ るとき。	(告示に同じ。)	第1 4. 動詞と動 詞と複合し たものは、 前のにも後 のにも送り がなをつけ る。	第1 5. 複合動詞 は、以上の 基準に従っ て、その一 つ一つに送 りがなをつ ける。	第1 8. 動詞と複 合したも のは、前 のにも後 のにも送 りがなを つける。 [注意] 右に おいて前の 動詞が2音 節で接頭語 のやうに用 ひられてゐ	第6則 漢字ノ 2字以上ヲ以 テ複合活用語 ニ訓ジタル場 合ニハ、ソレ ゾレ送仮名ヲ 附スベシ。 除外 2音ノ動 詞ノ上部ニ来 リタルトキハ 時宜ニヨリ、 ソノ送仮名ヲ 省クコトヲ 得。	
複 合 動 詞								

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35)	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
複 合 動 詞			③ 上の語が実 質的な意味を 表わすとき。 ④ 下に来る語 がかな書きの とき。 など。				るもの及び 誤読のおそ れのないも のは、その 送りがなを 省くことが できる。	
	移り変わる	移り変わる		○		(移り変わり)		(移り変リ)
	思い出す	○		○		○		○
	流れ込む	○		○				
	譲り渡す	○		○	○	○	○	○
	他の例語 →				届け出る	歩み寄る, 受け 取る, 打ち破る, 押し寄せる, 落 ち着く, 繰り返 す, 差し押さえ る, 届け出る, 申 引き受ける, 申 し出る	(イ) 差出す, 引受ける (ロ) 成立つ, 割当てる	

第2 形容詞

告 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
7 形容詞は、活用語尾を送る。語幹が「し」で終わるものは、「し」から送る。		(告示に同じ。)	第2 1 形容詞は、活用語尾を送る。 2 語幹が「し」で終わる形容詞は、「し」から送る。	第2 1 形容詞は活用語尾を送る。 [注意]「荒い」「古い」は動詞との関連が考えられるが、それぞれ「ら」「る」を送らない。 2 語幹が「し」で終わる形容詞は「し」から送る。 [注意]「恋しい」は動詞との関連が考えられるが、「い」を送らない。	第2 1 形容詞は、活用語尾を送る。 2 語幹が「し」で終わる形容詞は「し」から送る。	第1側 漢字ヲ以テ活用語(動詞, 形容詞, 助動詞)ヲ書キアラハストキハ、語尾ノ活用スル部分ヲ送仮名トナスベシ。 (1) 普通ノ活用形 (2) 活用形ノ音便ニヨリテ他ノ音ニ転ジタルモノ。
暑い				○		

	告 (昭34) [現行]	示 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
形 容 詞	白 い		○	○		○	
	高 い		○				
	若 い	○					
	新 しい	○	○	○	○	○	○
	美 しい	○		○	○	○	
	苦 しい	○		○	○	○	○
	珍 しい	○	○	○	○	○	○
一 般	他の例語 →			強い, 著しい, 正しい	青い, 浅い, 荒 い, 幼い, 細い 古い, 怪しい, 著しい, 麗しい 恋しい	強い, 無い, 悲しい	
	ただし, 次の 語は, 活用語尾 の前の音節から 送る。		ただし, 次の 語に限って, 活 用語尾の前の音 節から送る。	第2 3 活用語尾 を送るだけ では, 誤読・ 難読のおそ れのある形 容詞は, そ	第2 3 活用語尾 を送るだけ では, 読み 誤られるお それのある 次のような	第2 3 活用語 を送るだ けでは, 誤読・難 読のおそ れのある 形容詞は,	

告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
				の前の音節から送る。	形容詞は、その前の音節から送る。	その前の音節から送る。	
形 容 詞	○	○	○	○	明かるい	明[か]るい	○
明るい(「明い」では難読。「あかい」と誤読。「明ける」と関連させて通則9をあてはめると「明かるい」となる。)							
危うい(「危い」では「あぶない」と誤読。)	○	○	○	危 い	○		危 シ
一般							
大きい(「大い」では難読。「おおい」と誤読。慣用もあった。)			○	○	○	○	
少ない(「少い」では難読。「少くない」のとき「すくなくない」と誤読。)	○	○	○	少 い	○	少 い	少 シ

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
形 容 詞 一 般	小さい(「小さい」 では難読。慣用 があった。)	○	○	○	○	○	小 シ
	冷たい(「冷たい」 では難読。「ひ やい」と誤読。)	○	○	○	○	○	冷 シ
	平たい(「平たい」 では難読。慣用 があった。)	○	○	○	○	○	○
	他の例語 →						
他の形容詞と関係のある形容詞	8 活用しない 部分に他の形 容詞の語幹を 含む形容詞 は、含まれて いる形容詞の 送りがな によって送る。		(告示に同じ。)		第2 4 他の形容 詞または他 の品詞と関 係のある形 容詞は、そ れぞれ他の 形容詞また は他の品詞 の送りがな		

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
他の形容詞と関係のある形容詞						の基準に従ってつける。 (他の形容詞と関係のあるもの)		
	重たい	○		○		○		
	憎らしい	○				○		○
	古めかしい	○			○	○		
	他の語例→							
動詞と関係のある形容詞		9 活用しない部分に動詞の活用形またはそれに準ずるものを含む形容詞は、その動詞の送りがないによって送る。		(告示に同じ。)	第2 4 動詞と関係のある形容詞は、その動詞の送りがなを基準としてつける。	第2 4 他の形容詞または他の品詞と関係のある形容詞は、それぞれ他の形容詞または他の品詞の送りがなを基準に従ってつける。 (動詞の活用)	第2 4 活用しない部分に、動詞の活用形をふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるものから語尾から送る。 [注意] 右において誤読	第2則 活用語ノ活用セザル部分ニ、他ノ語ノ活用形ヲ含ムモノハ、送仮名トシテ之ヲ書キアラハスベシ。 (3) 形容詞ノ中ニ動詞ノ活用ヲ含ムモノ。

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
動詞と関係のある形容詞								
						形または活用形に準ずるものを含むもの。)	<p>難読のおそれのないものは、そのふくまれてゐるものの語尾を送らない。</p> <p>5 活用しない部分に、動詞の活用形に準ずるもの(語尾の音が変化してゐるもの)をふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるものの語尾から送る。</p>	

告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
勇ましい	○		○	○	○	○	○
輝かしい	○		/	○	○	○	○
頼もしい	○		○	○	○	○	頼 シ
喜ばしい	○		/	○	○	○	○
恐ろしい	○		○	○	○	○	恐 シ
他の例語 →				望ましい, 願わしい	明かるい, 嘆かわしい, 望ましい, 恥ずかしい, 煩わしい, 煩わしい	騒がしい	
10 活用しない部分に形容動詞の語幹を含む形容詞は, その形容動詞の送りがなによって送る。			(告示に同じ。)		第2 4 他の形容詞または他の品詞の品詞と関係のある形容詞は, それぞれ他の形容詞または他の品詞の送りがな	第2 6 副詞をふくむ形容詞は, 副詞としての送りがないから送る。	第5則 副詞ヨリ転ジテ活用語ニ用キラレタルモノハ, 活用以外尚, 副詞の送仮名ヲ附スベシ。
動詞と関係のある形容詞							
形容動詞(副詞)のある形容詞							

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
						の基準に従 ってつける。 (形容動詞と 関係のある もの。)		
暖かい		○		○	○	○	○	○
細かい		○		○	○	○	○	細[カ]イ
柔らかい		○		○	柔かい	○	柔[ら]かい	柔カ
愚かしい		○		○		○		
他の例語 →							甚だしい	未ダシ, 甚ダシ
形容動詞(副詞)と関係のある形容詞						第2 4 他の形容 詞または他 の品詞と関 係のある形 容詞は、そ れぞれ他の 形容詞また は他の品詞 の送りがな	第2 7 活用し ない部分 に、名詞、 形容詞の 語幹をふ くむ形容 詞は、そ のふくま れてゐる	
名詞と関係のある形容詞								

告 示 (昭34) [現行]	朝 日 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
名詞と関係ある形容詞				の基準に従ってつける。 油っこい、 平たい(名詞と関係のあるもの)	もの以外の部分を書きかなとす。 際どい、 平たい	
11 動詞と形容詞とが結びついた形容詞は、その動詞と形容詞との送りがなによって送る。	(複合語は、上の語の送りがなを省くことが多い。)	(告示に同じ。)	第2 5 動詞と形容詞と複合したもの、その動詞にその形容詞にも送りがなをつける。	第2 5 複合形容詞は、以上の基準および他の品詞の送りがなに従ってつける。	第2 8 動詞と形容詞と複合したものは、その動詞にも、形容詞にも送りがなをつける	第6則 漢字ノ2字以上ヲ以テ複合活用語ニ訓ジタル場合ニハ、ソレゾレノ送仮名ヲ附スベシ。
聞き苦しい	聞きしい	○	○	○	○	
待ち遠しい	待遠しい	○		○		(待合ハス)
他の例語→						

第3 形容動詞

	告 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
形 容 動 詞	12 形容動詞は、活用語尾を送る。			(告示に同じ。)		第3 1 形容動詞は活用語尾を送る。		第4則 形容動詞ニ用キラレタル漢字ニハ、語尾ノナリ、タリ、カリヲ送仮名トシテ書キアラハスベシ。
	急だ(な)			○				
	別だ(な)			○				
	適切だ(な)			○		○		
	積極的だ(な)			○				
一 般	他の例語 →					安全だ、妙だ		詳ナリ、滔々タリ、異ナリ、悪シカリ、苦シカリ
	13 活用語尾の前に「た」「か」「ら」「やか」「らか」を含む形容動詞は、その音節から			(告示に同じ。)	第3 3 「かに」「やかに」「らかに」「やか」「らか」をついた副詞は、これら	第3 2 活用語尾の上に「た」「ら」「か」「やか」「らか」を含む	第3 3 「かに」「やかに」「らかに」などのついた副詞	第5則 副詞ヨリ転ジテ活用語ニ用キラレタルモノハ、活用以外尚、副詞ノ送仮名

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
形 容 動 詞 一 般	送る。				を送る。	だ次のような形容動詞は、これらのかから送る。	はこれらを送る。	ヲ附スベシ。
	新たに	○ (新たに)	○			○	○ (新たに)	
	静かだ	○ (静か)			○ (静かに)	○	○ (静かに)	
	確かだ	○ (確かに)	○			○		
	平らだ	○ (平らに)	○			○		
	穏やかだ	○ (穏やかに)	○		○	○	(穏[や]かに)	穏ナリ
	健やかだ	○ (健やかに)				○	(健[や]かに)	
	明らかだ	○ (明らかに)	○		○ (明らかに)	○	(明[ら]かに)	○
	朗らかだ	○ (朗らかに)			○ (朗らかに)	○	(朗[ら]かに)	朗ナリ
	他の例語 →				詳らかに	暖かだ, 愚かだ, 細かだ, 豊かだ, 平らかだ	豊かに, 賑やかに, 滑らかに	専ラナリ, 頻ナリ
14	活用しない部分に形容詞の語幹を含む			(告示に同じ。)		第3 3 他の品詞と関係ある		

	告 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
形容詞と関係のある形容動詞	形容動詞は、 その形容詞の 送りがなま よって送る。				形容動詞は、 その品詞の 送りがなま たはそれと 関係のある 音節から送 る。 (形容詞と関係 のあるもの)		
	清らかだ	○ (清らかに)			○		
	高らかだ	○ (高らかに)			○		
	同じだ	○ (同じに)	○		○		
	他の例語 →				安らかだ		
動詞と関係のある形容動詞	15 活用しない 部分に、動詞 の活用形また はそれに準ず るものを含む 形容動詞は、 その動詞の送 りがなまによっ		(告示に同じ。)		第3 3 他の品詞 と関係のあ る形容動詞 は、その品 詞の送りが なまはそ れと関係の		

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動詞と関係のある形容動詞								
	て送る。					ある音節か ら送る。 (動詞と関係 あるもの)		
	晴れやかだ	○	○	○	○	○	(晴[れ]やかにか)	晴 ヤ カ
	冷やかだ				(冷やかにか)		(冷やかにか)	冷 カ
	他の例語 →					切れ切れだ、盛 んだ、巧みだ、 伸びやかだ		

第4 名 詞

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
名 詞 一 般	16 名詞は、送りがなをつけない。			(告示に同じ。)			第4 1 本表の 名詞は、 かなを送 らない。	第10則 名詞、 代名詞等ニハ 送仮名ヲ附セ ザルヲ通則ト スレドモ...
頂		○		○		○		
帯		○		○	○	○		○

名 詞 一 般	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
	趣 旨 隣 他の例語 →	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ 紙, 時, 銅, 山里, 国民	○ ○ ○
	ただし, 次の語 は, 最後の音節 を送る。			ただし, 次の語 に 限 っ て, 最後 の 音 節 を 送 る。		第 4 5 次の語は 読み誤られ るおそれが あるので, 最後の1音 節を送る。		
	哀れ (「哀」では 難読。ものの哀, 哀を催す。)	○		○	○	○	○	○
	後ろ (「後」では 難読。「のち」と 誤読。)	○		○	○	後, うしろ	○	後
	幸い (「幸で」は 難読。幸好天に 恵まれて…)	○		○	幸	○	○	幸 (名 詞), 幸と (副詞)

告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
互い (「互」では 難読。)	○	○	○	(互に)	(互に)	(互に)	(互に)
半ば (「半」では 難読。半完成し た, 春の半)	○	○	○		○		○
情け (「情」では 「ジ ョウ」と誤 読。情を知る)	○	○	○		情		情
斜め (「斜」では 「シャ」と誤読。初 等教育で使用。)	○	○	○	○	斜		斜
誉れ (「誉」では 難読。初等教育 で使用。)	○	○	○		誉		誉
災い (「災」では 難読。…の災に 会う)	○	○	○				
17 活用語から 転じた感じの 明らかな名詞 は, その活用	1 次の動詞に 限り, 送りが なを「新送り がな」以前の	(告示に同じ。)	第4 1 活用語か ら転じた名 詞 (複合名	第4 1 他の品詞 から転成し た名詞 (複	第4 2 活用語 から転じ た名詞	第10則…動詞ヨ リ転ジテ名詞 トナレルモノ ノ中, 左ノモ	

	告 (昭34)〔現行〕	朝 (昭37)〔現行〕	法令用語 (昭35)〔現行〕	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動 詞 と 関 係 の あ る 名 詞	語の送りがな をつける。	形に戻し、次 のように書 く。これらの 動詞から転じ た名詞の送り も、これに準 ずる。 2 名詞のうち 活用語から転 じた感じの明 らかなものは、送りがな をつけるが、 慣用が固定し ていると考え られるものは、送らない ことがある。		詞を含む) は、原則と して活用語 本来の送り がなをつけ る。…	合名詞を含 む)は、そ れぞれの品 詞の送りが な基準に 従ってつけ る。	(複合名 詞をふく む)は、 原則とし て活用語 本来の送 りがなを つける。	ノニハ、本ノ 動詞ノ活用ヲ 書キアラハシ テ送仮名トス ベシ。 第12則 動詞ヨ リ転ジテ名詞 トナレルモノ ノ中、左ノ如 キ場合ニハ、 時宜ニヨリ送 仮名ヲ附スル コトヲ得。 (1) 自他両様ノ 動詞ニ用キラ ルル漢字ニ シテ、単独ニ 名詞トシテ用 キラレ、又ハ 複合名詞ノ一 部トシテ用キ ラレ、自他弁 別ノ必要ヲ感

告 (昭34)	示 〔現行〕	朝 (昭37)	日 〔現行〕	法令用語 (昭35) 〔現行〕	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
動詞と関係のある名詞								
								ズルトキ。 残 ^リ 渡 ^リ 預 ^ケ 人主 (2) 漢字ヲ音読 セル同形ノ語 アリテ、弁別 ノ必要ヲ感ズ ルトキ。 。変リナシ (変 ナシ) 。読ミ書キ (読 書)
動 き		○		○	○	○	○	動
戦 い		○		/	/	○	○	戦
残 り		○		○	○	/	○	/
苦 し み		○		/	○	○	○	苦〔シミ〕
近 く		(近い)		/	/	○	/	/
遠 く		○		/	/	○	/	/

動詞と関係のある名詞	告 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
	他の例語 →		余り、誤り、伺 い、疑い、訴え、 定め、責め		遊び、勢い、暮 れ、幸い、嗜れ、 群れ	調べ	封ジ、通ジ、察 シ、達シ、書損 シ、定マリ、宿 リ、聞キ、買ヒ ...
	ただし、(1)誤 読・難読のおそ れの無いものは、かっこの中 に示したように 送りがなを省い てもよい。	1 次の動詞に 限り、送りが なを「新送り がな」以前の 形に戻し、次 のようにな書 く。これらの 動詞から転じ た名詞の送り も、これに準 ずる。	ただし、(1)誤 読・難読のおそ れの無い語につ いては、次の例 に示すように送 りがなを省く。	第4 1…誤読・難 読のおそ の無いもの は、その送 りがなの一 部又は全部 を省く。	第4 1. (2)…ただし、 次のよう なものは、 慣用に従 って送ら ない。	第4 3 活用語 から転じ た名詞 (複合名詞 をふくむ) のうち、 誤読・難 読のおそ れの無い ものは、 その送り がなの一 部又は全 部を省く ことができ る。	

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
動 詞 と 関 係 の あ る 名 詞	現われ (現れ)	(○)	(○)	(○)	(現われる)	(現われる)	(現はれる)	(現ル)
	行ない (行い)	(○)	(○)	(○)	(行う)	(行う)		(行ハル)
	断わり (断り)	(○)	(○)		(断る)	(断る)		(断ル)
	聞こえ (聞え)	(○)	(○)		(聞える)	(○)	(○)	聞
	向かい (向い)	(○)	(○)	(○)	(向かう) (向う)	○	(○)	○
	起こり (起り)	(○)	(○)	(○)	(起る)	(○)	(起る)	(○)
	終わり (終り)	(○)	(○)	(○)	(終る)	(○)	(終る)	終
	代わり (代り)	(○)	(○)	(○)	(代る)	(代わる)	(代る)	
	付の例語→			止り				
	(2) 慣用が固定している と認められる次の語は、 送りがないなをつけなく てもよい。	2 名詞のうち、活用語から 転じた感じの明らかなものは、 送りがなをつけるが、慣用 が固定していると考えられ るものは、送らないことが	(2) 次の語に限って、送りがなをつけない。	第4 1…誤読・難読のおそれのないものは、その送りがなの一部又は全部を省く。	第4 1 (2)…ただし、次のようなものは、慣用に 従って送らない。	第4 3 活用語から転じた名詞 (複合名詞をふくむ)のうち、 誤読・難読のおそれのない		

告 (昭34)	示 〔現行〕	朝 (昭37)	日 〔現行〕	法令用語 (昭35) 〔現行〕	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
動詞と関係のある名詞								
		ある。					ものは、 その送り がなの一 部又は全 部を省く ことができる。	
卸		○		○				
組		○		○		○	○	
恋		○		○		○		
志		○		○		○		
次		○		○	○	○	(次の、次[ぎ] に)	(次ギニ)
富		○		○		○		
恥		○		○	○	○		○
話		○		○	○	○	○	○
光		○		○		○		○
舞		○		○		○		○
巻		○		○				

動詞の とある 関係名詞	告示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
	雇	○	○	○ (雇主)		(雇[ひ]主)	○ (雇主)
形容詞と関係のある名詞	18 形容詞, 形容動詞の語幹に「さ」「み」「げ」などがついて名詞になっているものは, その形容詞, 形容動詞の送りがない。 他の例語 →		(告示に同じ。)	第4 2 形容詞の語幹に「さ」「み」「げ」などがついて名詞となっているものは, これらのかを送る。語幹が「し」で終るものは, 「し」から送る。	第4 2 形容詞の語幹に「さ」「み」「げ」などがついて名詞となっているものは, これらのかを送る。語幹が「し」で終るものは, 「し」から送る。	第4 2 活用語から転じた名詞(複合語をふくむ)は原則として活用語本来の送りがなをつける。 4 形容詞の語幹に, 「さ」「み」「げ」などがついて, 名	第11則 動詞, 形容詞ノ下ニ サ, ミ, ゲ, ソノ他ノ接尾語ヲ附加シテ成レル名詞ハ, 動詞, 形容詞ノ送ルベキ部分ヲ添ヘテ送ルベシ。

	告 (昭34) [現行]	示 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法 (昭35) [現行]	公 (昭22)	中 (昭23)	案 (昭21)	送 (明40)
形容詞と関係のある名詞							詞となっ てゐるも のは、こ れらのか なを送 る。 語幹が 「し」で終 るものは 「し」から 送る。	
大きさ				○				
正しさ		○		○	○			
明るみ		○						
惜しげ		○			○	○	○	
確かさ		(確かに)		○				
他の例語 →			明るさ	重さ、強み、寒 け	甘さ、重さ、辛 さ、強み、弱み、 憎しみ、寒け、 憎げ	暑さ、親しさ、 甘み、寒け、 眼け	甘ミ、重ミ、憎 シミ、楽シサ	
19 活用語を含			(告示に同じ。)	第4	第4	第4	第4	

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
複 合 名 詞	む複合名詞は、 その活用語の 送りがなにな よって送る。				1 活用語か ら転じた名 詞 (複合名 詞をふく む。)は、原 則として活 用語本来の 送りがなを つける。誤 読・難読の おそれのな いものは、 その送りが なの一部又 は全部を省 く。	1 他の品詞 から転成し た名詞 (複 合名詞を含 む) は、そ れぞれの品 詞の送りが なの基準に 従ってつけ る。	2 活用語 から転じ た名詞 (複合名詞 をふくむ) は、原則 として活 用語本来 の送りが なをつけ る。	
	心構え	○			○	○		心構
	日延べ	○		○				
	物知り	○			○	○	○	物知
	山登り	○						
	教え子	○				(教え)		(教)

	告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
複 合 名 詞	考 え 方		○			(考 え)	(考 え)		(考)
	続 き 物		○				(続 き)		(続)
	包 み 紙		○				(包)		(包)
	大 写 し		○				(生 き 写 し)		(写)
	長 生 き		○						
	早 起 き		○						
	歩 み 寄 り		○			○	○	○	歩 寄 り
	見 送 り		○			○	○	○	見 送
	読 み 書 き		○		○	読 書 き	○	○	○
	他の例語 →				預け金, 頭割り, 編み方, 行き先, 一枚刷り, 送り 状, 送り主, 格 付け, 賃借り, 手持ち, 度盛り, 中継ぎ, 荷積み, 不渡り, 干し魚, 骨組み, 前貸し, 間借り, 見込み,	見合せ, 買出し, 打合せ, 取計い,	秋晴れ, 色合い (名+動), 明け 方, 生け花 (動 +名), 書き取 り, 勝ち負け (動 +動) ...	生き物	

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
複			見舞い、持ち味、横書き、利上げ				
合	ただし、誤読・難読のおそれのないものは、かつこの中に示したように送りがなを省いてもよい。 〔備考〕「置きみやげ」「払いもどし」のよう	4 活用語を含む複合名詞は、送りがなの一部または全部を省くことが多い。	ただし、誤読・難読のおそれのない語については、次の例に示すように送りがなを省く。 〔備考〕「払いもどし」のよう	第4 1 活用語から転じた名詞(複合名詞をふくむ。)は、原則として活用語本来の送りがなをつける。	第4 1 (2) 名詞と動詞とが結合したもの (3) 動詞と名詞とが結合したもの (4) 動詞と動詞とが結合したもの	第4 3 活用語から転じた名詞(複合名詞をふくむ。)のうち、誤読・難読のおそれのないものは、その送りがな	
名	前の動詞の送りがなを省かない。		場合には、前の動詞の送りがなを省かない。	誤読・難読のおそれのないものは、その送りがなは全部を省く。 (四)見合せ、買出し... (ハ)手続、勤先...	は、慣用に従って(全部または一部)を送らない。板敷、糸巻、梅干、入口、植木、置物、請負、打消、書留...	の一部分又は全部を省くことができる。 見合せ 打合せ	
詞							

告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 反 名 法 (明40)
		※新聞協会 [現行]	※NHK用語 [現行]				
複							
帯止め (帯止)	○	○	○				
気持ち (気持)	(○)	○	(○)				
綱引き (綱引)	(○)	○	○				
封切り (封切)	(○)	○	○				
金詰まり (金詰り)	(○)	○	○	(詰まる)	(詰まる)		(詰ル)
心当たり (心当り)	(○)	○	○	(○)	○	(○)	(○)
身代わり (身代り)	(○)	○	○	(○)	○		(身代)
大向こう (大向う)	(○)	○	○	(向う)	(向こう)		(向カフ)
編み物 (編物)	(○)	○	○	(○)		編[み]物	(○)
受け身 (受身)	(○)	○	○				
掛け図 (掛図)	(○)	○	○				
死に時 (死時)	(○)	○	○				
合わせ鏡 (合せ鏡)	(○)	○	○				
打ち切り (打切り)	(○)	○	(打ち切 る)	(○)	○	(○)	打切
名 詞							

告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
		※ 新聞協会 [現行]	※ NHK用語 [現行]				
売り出し (売出し)	(○)	○	／ (売り出す)	(○)	○	(○)	／
落ち着き (落着き)	(○)	○	／	(○)	○	(○)	／
申し込み (申込み)	(○)	○	／	申 込	／	申 込	申 込
取り締まり (取締り)	取締[役職] (○)[一般]	○	／ (○)	取 締	○	(○)	取 締
果たし合い (果し合い)	(○)	○	／	／	／	／	／
向かい合わせ (向い合せ)	(○)	○	／	／	(向かい)	(向ひ)	(向カヒ)
書き入れ時 (書き入れ時)	(○)	○	／	／	／	／	／
打ち合わせ会 (打合せ会)	(○)	○	／ (○)	打 合 会	○	打 合 会	打 合 会
置きみやげ	○	○	／	／	／	／	／
払いもどし	払戻し	払い戻し	／ 払い戻す	／	／	／	／
他の例語 →			預り金, 編上げ ぐつ, 言渡し, 入替え, 受持ち, 打切り, 埋立て, 切下げ, 取決め, 呼出し... (以上, 法令用語)	手続, 勤先, 申 込	入江, 討手, 置 物, 追分, 見舞		

複 合 名 詞

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
複 合 名 詞	20 慣用が固定 しているとして認 められる次の ような語は、送 原則として送 りがなをつけ ない。	6 特に慣用が 固定している と考えられる 複合語は、送 りがなをつけ ない。	20 慣用が固定 しているとして認 められる次の 例に示すよう な語について は、送りがな をつけない。	第4 1 …誤読・ 難読のおそ れのないも のは、送り がなの一部 又は全部を 省く。 (イ) 手続、勤 先、申込	第4 1 (3) …ただ し、次の ようなも のは慣用 に従って 送らな い。	第4 3 活用語 から転じ た名詞 (複合名 詞をふく む) のう ち、誤読・ 難読のお それのな いもの は、その 送りがな の一部又 は全部を 省くこと ができる。	
詞							
	献 立	○	○	○	○	○	○
	座 敷	○	○	○	○	○	○

告 (昭34)	示 〔現行〕	朝 (昭37)	日 〔現行〕	法 令 (昭35)	用 語 〔現行〕	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
			※ 新聞協会 〔現行〕		※ NHK用語 〔現行〕				
関 取		○	○	/	○	/	/	/	/
手 当		○(慣用)手 当て〔一般〕	手当て	○	○	○	手当て	○	○
頭 取		○	○	○	○	/	/	/	/
仲 買		○	仲買い	/	○	/	/	/	/
場 合		○	○	○	○	/	/	/	/
番 付		○	番付け	/	○	/	○	/	/
日 付		○	日付け	○	○	日づけ	/	○ 日附	○ 日附
歩 合		○	○	○	○	/	/	/	/
物 語		○	物語り	/	○	/	○	/	/
役 割		○	役割り	/	○	/	/	/	/
屋 敷		○	○	/	○	/	/	/	/
夕 立		○	夕立ち	/	○	/	/	/	/
両 替		○	両替え	○	○	/	/	/	/
…係 (進行係)		○	○	/	○	/	/	/	/
…割 (2割)		○	○	/	○	○	○	○	○

複 合 名 詞

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
			※新聞協会 [現行]	※NHK用語 [現行]				
小包		○	小包み	○	/	○	/	○
植木		○	植え木	/	○	植え木	/	○
織物		○	織り物	○	/	○	/	○
係員		○	/	○	/	○	/	/
切手		○	○	○	/	○	/	/
切符		○	○	/	/	/	/	/
消印		○	消し印	○	/	/	/	/
立場		○	立ち場	/	○	○	○	○
建物		○	建て物	○	○	○	○	○
請負	○[慣用]請負い	○	請け負い	○	○	/	○	○
受付	○(人、場所)	○	受け付け	○	○	○	○	○ 受附
受取	○(書いたもの)受取り(一般)	○	受け取り	○	○	/	○	○
書留	○	○	書き留め	○	○	○	/	○
組合	○	○	○	○	○	○	○	○
踏切	○(交通)踏切り(一般)	○	踏み切り	/	○	○	○	○

複 合 名 詞

告 (昭34)	示 [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
			※新聞協会 [現行]					
振替		○	振替替え	○	○	○		○
割合		○	割り合い	○	○	○	○	○
割引		○	割り引き	○	○	○	○	○
貸付金		○	貸し付け 金	○	(貸付)			(貸附)
借入金		○	借り入れ 金	○	○			○
繰越金		○	繰り越し 金	○	○		○	○
積立金		○	積み立て 金	○	(積立)	(積み立て)		(積立)
取扱所		○	取り扱い 所	(取扱人)(取扱人)		○		○
取締役		○	○	○	(取締)	(取り締まり)	(取締り)	(取締)
取次店		○	取り次ぎ 店	○	(取次)	(取次)	(取次)	(取次)
取引所		○	(取引引 き高)	○	(取引)	(取引)	(取引)	(取引)
乗換駅		○	乗り換え 駅	(乗換券)				(乗換)
乗組員		○	乗組み 員	○				
引受人		○	引き受け 人	○	○		○	○
振出人		○	振り出し 人	(振出局)	○			

複 合 名 詞

複合名詞	告 示 (昭34) [現行]	朝 期 (昭37)	日 [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
			※新聞協会 [現行]	※NHK用語 [現行]				
	待合室	○	待ち合い 室	○	(待合)		(待合)	(待合)
	見積書	○	見積もり 書	○	○			○
	申込書	○	申し込み 書	○	○		○	○
	浮世絵	○	浮き世絵	○				
	小売商	○	小売り商	(小売)	○			
	代金引換	○	(引き替 え)	○	(引き替 え)			
	他の例語 →			埋立地, 押売, 卸売, 買上品, 貸方, 貸間, 付 添人, 手回品		字引, 手取金, 目盛, 恋人, 吸 物, 染物, 但書, 討死, 差引, 呼 出電話...		
数 詞	21 数をかぞえ る「つ」を含む 名詞は, その 「つ」を送る。			(告示に同じ。)	第 4 3 数を数え る語尾の 「つ」は, 送 る。	第 4 4 数を数え る語尾の 「つ」は, 送 る。	第 4 5 数を数 える語尾 の「つ」は 送る。	第13則 数詞ハ 一ツ, ニツ, 三ツ等数フル トキノツ, 半 バノヅ, 万ヅ ノヅヲ送ルベ シ。

	告 (昭34)	示 〔現行〕	朝 (昭37)	日 〔現行〕	法令用語 (昭35) 〔現行〕	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
数	一	つ	○		○	○	○	○	○
	二	つ	○		○	○	○	○	○
詞	三	つ	○		○	○	○	○	○
	他の例語 →					五つ, 幾つ	幾つ, 五つ	幾つ, 四つ	四つ, 五ツ紋

第5 代 名 詞

	告 (昭34)	示 〔現行〕	朝 (昭37)	日 〔現行〕	法令用語 (昭35) 〔現行〕	公用文 (昭22)	中等国語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
代	22	代名詞は、 送りがなをつ けない。			(告示に同じ。)	備考…代名詞は 漢字を用いな いのを原則と する。	第4 3 代名詞に は送りがな をつけない。 代名詞は 原則として かなで書く。	備考 代名詞 は、漢字を 用ひないの を原則とす る。	第10則 名詞、 代名詞等ニハ 送仮名ヲ附セ ザルヲ通則ト スレドモ、…
名	彼		○		○	か	れ		
詞	彼女		○		○	(かの)			(彼ノ)
	何		○		○				(何ゾ)
	他の例語 →						私, 我		

第6 副 詞

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	法 令 用 語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
副	23 副詞は、最 後の音節を送 る。		(告示に同じ。)	第3 1 副詞は最 後の1音節 を送る。	第5 1 副詞は最 後の1音節 を送る。	第3 1 副詞は 最後の1 音節を送 る。	第8則 2音ノ 副詞モシ、ヨ シ、ヨク、カ クノ4語及ビ 3音以上ノ副 詞ニ用キラレ タル漢字ニハ、 最後ノ1音ヲ 送仮名トシテ 添フベシ。
詞	必 ず	○	○	○	○	○	○
1	少 し	○	○	○	○	○	○
	再 び	○	○	○	○	○	○
	全 く	○	○	○	○	○	○
	最 も	○	○	○	○	○	○
般	他の例語→			殊に、既に、常 に、更に、但し	更に、実に、既 に、互に、常に、 特に、自ら	先づ、若し、 殊に	殆ど、尤も、聊 か、自ら、甚だ、 雖も、能く、斯 く

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37)	日 [現行]	法令用語 (昭35) [現行]	公 用 文 (昭22)	中 等 国 語 (昭23)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
副 詞	直ちに(「直に」では難読。「じきに, じかに, すぐ」に」と誤読。)	○		○	○	○	○	直ニ
一	大いに(「大に」では難読。慣用があった。)	○		○	○	○	○	○
般	他の例語 →						徒らに	
他の副詞と関係のある副詞	24 他の副詞を含む副詞は、含まれている副詞の送りがないことによって送る。			(告示に同じ。)	第3 4 副詞の語尾に更に助詞・接尾語が加わって、別の副詞となっていて、ものは、もとの副詞の送りがないから送る。	第5 4 副詞の語尾に更に助詞・接尾語が加わって別の副詞となっていて、ものは、もとの副詞の送りがないから送る。	第3 4 副詞の語尾に更に助詞、接尾語が加はって別の副詞となっていて、ものは、もとの副詞の送りがないから送る。	第9則 副詞ノ語尾ニ助詞接尾語アルモノハ、ソノ送ルベキ部分ヲ添ヘテ送ルベシ。

	告 示 (昭34) [現行]	朝 (昭37) [現行]	日 (昭35) [現行]	法 令 用 語 (昭22)	公 用 文 (昭23)	中 等 国 語 (昭21)	案 (昭21)	送 仮 名 法 (明40)
	必ずしも	○	○	○	○	○	○	○
	他の例語 →			若しくは	若しくは	若しくは	若しも、若しくは	争デカ、必ズシモ、聊カモ
名 詞 と 関 係 の あ る 副 詞	25 名詞を含む副詞は、その名詞の送りがないによって送る。			(告示に同じ。)			第3 副詞の一部分に名詞をふくむものは、そのふくまれるものの以外の部分をかきとする。	
	幸いに	○	○	○	(さいわい)	(さいわい)	○ (幸ひ) 副	○ (幸ヒ) 副
	互いに	○	○	○	互 に	互 に	互 に	互 に
	斜めに	○	○ (斜め)	○	○ (斜め)	○ (斜)		(斜)
	他の例語 →						手づから	

	告 (昭34) 示 〔現行〕	朝 (昭37) 日 〔現行〕	法令用語 (昭35) 〔現行〕	公用文 (昭22)	中等語 (昭23)	案 (昭21)	送仮名法 (明40)
活用語と関係のある副詞	26 活用語を含む副詞は、その活用語の送りがないによって送る。		(告示に同じ。)	第3 5 活用語と関係のある副詞は、その活用語の語尾を送る。	第5 3 活用語から転じた副詞はそれぞれ活用語の送りがないの基準に従ってつける。	第3 5 活用語と関係のある副詞はその活用語の語尾を送る。	
絶えず	○	○	○				
少なくとも	○	○	○	少くとも	○	少くとも	少クトモ
他の例語→				始めて、絶えず、盛んに、従って	決して、初めて	余り、始め、絶えず、盛んに	

〔かな-7〕, 〔総-13〕 活用語尾に限定した送りがないについて

- 1 この資料は、送りがなを活用語の活用語尾に限定して考えようとどうなるかを、告示「送りがなのつけ方」の各通則に掲げられた語例についてみたものである。
- 2 したがって、動詞、形容詞、形容動詞のほか、活用語から転成したとみられる名詞や副詞なども対象に含めたが、それ以外の本来の名詞とみられるものや、代名詞、本来の副詞などの活用しない語、ならびに活用語であっても、接尾語を伴ってできたことが明らかでない語および字音語の形容動詞は対象から除外した。
- 3 この表では、活用語尾の書き表わし方を、次の3とおりの原則によってそれぞれ示してある。

① 複合した活用語は、一律に1語と考えてその活用語尾を書き表わす。

② 複合した活用語は、そのおのおのの活用語尾を書き表わす。

③ 活用語を含む語は、その活用語の活用語尾を書き表わす。

- 4 この表においては、左欄に告示の通則の語例の表記を掲げ、①、②、③の欄には、それぞれ上記の①、②、③の原則による表記を示した。

注 1 部会としては、今後上記の3とおりの考え方に基づいて、さらに多くの語例について考察し、どの原則を採るのが適切であるかを検討するとともに、現行の通則について検討する予定である。

- 2 この資料から除いた語、すなわち、上記の活用語に関係のない名詞、副詞、代名詞および接尾語を伴っていると考えられる活用語の送りがなについては、別途検討する予定である。

- 3 この資料は、かな部会に提出した審議資料〔かな-5〕と〔かな-6〕を一つにまとめたものである。

第1 動 詞

	告示, 通則語例の表記	①	②	③	備 考
通	書く 読む 生きる 考える 生きる ただし 現わ 表わす 著わす れる 異なる 行なう 脅かす る 異なる 断わる 賜わる 群 る 群る 和らぐ 和ぐ	書く 読む 生きる 考える 生きる 表す 著す 現れる 行い 脅す 異なる 断る 賜る 群る 和ぐ	書く 読む 生きる 考える 生きる 表す 著す 現れる 行い 脅す 異なる 断る 賜る 群る 和ぐ	書く 読む 生きる 考える 生きる 表す 著す 現れる 行い 脅す 異なる 断る 賜る 群る 和ぐ	※印の語の派生関係・ 対応関係を考えると 「脅やかす, 賜わる, 群らがる」とも考えら れる。
1					
通	浮かぶ(浮く) 動かす(動く) 及ぼす(及ぶ) 語らう(語る) 聞こえる(聞く) 積もる(積む) 照らす(照る) 計らう(計る) 向かう(向く) 起こす・起こる (起き る)	浮かぶ(浮く) 動かす(動く) 及す(及ぶ) 語う(語る) 聞える(聞く) 積る(積む) 照す(照る) 計う(計る) 向う(向く) 起す・起る (起きる)	浮かぶ(浮く) 動かす(動く) 及す(及ぶ) 語う(語る) 聞える(聞く) 積る(積む) 照す(照る) 計う(計る) 向う(向く) 起す・起る(起きる)	浮かぶ(浮く) 動かす(動く) 及ぼす(及ぶ) 語らう(語る) 聞こえる(聞く) 積もる(積む) 照らす(照る) 計らう(計る) 向かう(向く) ※起こす・起こる (起 きる) ※終わる(終える)	※印の語は, 含まれる 語の活用語尾にあたる 部分から送る。
2					
則					

	告示、通則語例の表記	①	②	③	備	考
通則 2	悔やむ(悔いる) 定まる(定める)	悔む(悔いる) 定る(定める)	悔む(悔いる) 定る(定める)	※悔やむ(悔いる) ※定まる(定める)		
通則 3	近づく 遠のく 赤ら める 重んずる 怪しむ 悲 しむ 苦しがる	怪しむ 悲しむ	怪しむ 悲しむ	怪しむ 悲しむ		「づく、のく、ずる」 は他の動詞、「める、が る」は接尾語と考えら れるので、この表から は除外するが、「怪し む」「悲しむ」を除外 するのには、問題があ るので掲げた。
通則 4	確かめる	確める	確める	確める		形容動詞「たしかだ」 を「確かだ」とすれば 「確かめる」となる。
通則 5	黄ばむ 春めく 先ん ずる 横たわる					「ばむ、めく」などは 接尾語と考えられるの で、この表からは除外 する。
通則 6	移り変わる 思い出す 流れ込む 譲り渡す	移変る 思出す 流れ込む 譲渡す	移り変る 思い出す 流れ込む 譲り渡す	移り変わる 思い出す 流れ込む 譲り渡す		

詞 格 形 第 2

告示, 通則語例の表記	①	②	③	備考
通則 7 暑い 白い 高い 若い 新しい 美しい 苦しい 珍しい ただしい 危うい 大きい 明るい 危い 大きい 少ない 小さい 冷たい 平たい	暑い 白い 高い 若い 新しい 美しい 苦しい 珍しい 明るい 危い 大きい 少ない 小さい 冷たい 平たい	暑い 白い 高い 若い 新しい 美しい 苦しい 珍しい 明るい 危い 大きい 少ない 小さい 冷たい 平たい	暑い 白い 高い 若い 新しい 美しい 苦しい 珍しい 明るい 危い 大きい 少ない 小さい 冷たい 平たい	いわゆるシク活用形容詞の「いい」は、活用語尾と考える。
通則 8 重たい 憎らしい 古めかしい				「らしい, めかしい」などは接尾語とも考えられるので、この表からは除外する。
通則 9 勇ましい 輝かしい 頼もしい 喜ばしい 恐ろしい	勇ましい 輝かしい 頼もしい 喜ばしい 恐ろしい	勇ましい 輝かしい 頼もしい 喜ばしい 恐ろしい	勇ましい 輝かしい 頼もしい 喜ばしい ※恐ろしい	※印の語は、含まれる語の活用語尾にあたる部分から送る。
通則 10 暖かい 細かい 柔かい 愚かしい	暖かい 細かい 柔かい 愚かしい	暖かい 細かい 柔かい 愚かしい	暖かい 細かい 柔かい 愚かしい	形容動詞「暖かい, 細かい, 柔かい, 愚かい」の送り方と関連させて考える。

	告示, 通則語例の表記	①	②	③	備考
通則 11	聞き苦しい 待ち遠しい	聞き苦しい 待ち遠しい	聞き苦しい 待ち遠しい	聞き苦しい 待ち遠しい	

第3 形容動詞

通則 12	急だ (な) 別だ(な) 適切だ(な) 積極的だ(な)				字音語の形容動詞であるので, この表からは除外する。
通則 13	新たた 静かだ 確か 平らだ 穏やかだ 健やかだ 明らかだ 朗らかだ	新だ 静だ 確か 平だ 穏だ 健だ 明だ 朗だ	新だ 静だ 確か 平だ 穏だ 健だ 明だ 朗だ	新だ 静だ 確か 平だ 穏だ 健だ 明だ 朗だ	「た, か, ら, やか, らか」を接尾語と考え, それから送るとすれば, 通則どおりになる。
通則 14	清らかだ 高らかだ 同じだ	清だ 高だ 同じだ	清だ 高だ 同じだ	清だ 高だ 同じだ	上に同じ
通則 15	晴れやかだ 冷やかだ	晴だ 冷だ	晴だ 冷だ	晴れやかだ 冷やかだ	

第4 名詞

通則 16	頂 帯 趣 量 隣	頂き 帯び 趣き 量み 隣り	頂き 帯び 趣き 量み 隣り	頂き 帯び 趣き 量み 隣り	
-------	--------------	-------------------	-------------------	-------------------	--

告示、通則語例の表記		①	②	③	備考
通則 16	ただし 哀れ 後ろ 幸い 互い 半ば 情け 斜め 誉れ 災い				活用語でないので、この表から除外する。
通則 17	動き 戦い 残り 残り 苦しみ 近く 遠く ただし(1) 現われ(現れ) 行ない(行い) 断わり(断り) 聞こえ(聞え) 向かい(向い) 起こり(起り) 終わり(終り) 代わり(代り) ただし(2) 卸 組 恋 志 次 富 恥 話 光 舞 卷 雇	動き 戦い 残り 残り 苦しみ 近く 遠く 現れ 行い 断り 聞え 向い 起り 終り 代り 卸し 組み 恋い 志し 次ぎ 富み 恥じ 話し 光り 舞い 巻き 雇い	動き 戦い 残り 苦しみ 近く 遠く 現れ 行い 断り ※聞こえ ※向かい ※起こり ※終わり ※代わり 卸し 組み 恋い 志し 次ぎ 富み 恥じ 話し 光り 舞い 巻き 雇い	※印の語は、含まれる語の活用語尾または、それにあたる部分から送る。	
通則 18	大きさ 正しさ 明る み 惜しげ 確かさ				「さ、み、げ」は接尾語なので、この表から除外する。

	告示、通則語例の表記	①	②	③	備考
通	心構え 日延べ 物知り 山登り 教え子 考え方 続き物 包み紙 大写真 長生き 早起き 歩み寄り 見送り 読み書き ただし	心構え 日延べ 物知り 山登り 教え子 考え方 続き物 包み紙 大写真 長生き 早起き 歩み寄り 見送り 読み書き	心構え 日延べ 物知り 山登り 教え子 考え方 続き物 包み紙 大写真 長生き 早起き 歩み寄り 見送り 読み書き	心構え 日延べ 物知り 山登り 教え子 考え方 続き物 包み紙 大写真 長生き 早起き 歩み寄り 見送り 読み書き	
則	帯止め(帯止) 気持ち(気持) 綱引き(綱引) 封切り(封切) 金詰まり(金詰り) 心当たり(心当り) 身代わり(身代り) 大向こう(大向う) 編み物(編物) 受け身(受身) 掛け図(掛図) 死に時(死時) 合わせ鏡(合せ鏡) 打ち切り(打ち切り)	帯止め 気持ち 綱引き 封切り 金詰り 心当り 身代り 大向う 編み物 受け身 掛け図 死に時 合せ鏡 打ち切り	帯び止め 気持ち 綱引き 封切り 金詰り 心当り 身代り 大向う 編み物 受け身 掛け図 死に時 合せ鏡 打ち切り	帯び止め 気持ち 綱引き 封切り ※金詰まり ※心当たり ※身代わり ※大向こう 編み物 受け身 掛け図 死に時 ※合わせ鏡 打ち切り	※印の語は、含む語の 活用語尾、または、そ れにあたる部分から送 る。

	告示、通則語例の表記	①	②	③	備	考
通則 19	<p>売出し(売出し) 落ち着き(落ち着き) 申し込み(申し込み) 取り締まり(取締り) 果たし合い(果し合い) 向かい合わせ(向い合せ) 書き入れ時(書入れ時) 打ち合わせ会(打合せ会) 置きみやげ 払いもどし</p>	<p>売出し 落ち着き 申し込み 取り締り 果し合い 向い合せ 書き入れ時 打ち合せ会 置きみやげ 払いもどし</p>	<p>売出し 落ち着き 申し込み 取り締り 果し合い 向い合せ 書き入れ時 打ち合せ会 置きみやげ 払いもどし</p>	<p>売り出し 落ち着き 申し込み ※取り締まり ※果たし合い ※向かい合わせ 書き入れ時 ※打ち合わせ会 置きみやげ 払いもどし</p>		
通則 20	<p>献立 座敷 閑取 手当 頭取 仲買 場合 番付 日付 歩合 物語 役割 屋敷 夕立 両替 …係 …割 …小包</p>	<p>献立で 座敷き 閑取り 手当て 頭取り 仲買 場合い 番付け 日付け 歩合い 物語り 役割り 屋敷き 夕立ち 両替え …係り …割り …小包</p>	<p>献立で 座敷き 閑取り 手当て 頭取り 仲買 場合い 番付け 日付け 歩合い 物語り 役割り 屋敷き 夕立ち 両替え …係り …割り …小包</p>	<p>献立で 座敷き 閑取り 手当て 頭取り 仲買 場合い 番付け 日付け 歩合い 物語り 役割り 屋敷き 夕立ち 両替え …係り …割り …小包</p>		

	告示, 通則語例の表記	①	②	③	備考
植木	織物 係員	植え木 織り物 係り員	植え木 織り物 係り員	植え木 織り物 係り員	
切手	切符 消印	切っ手 切っ符 消し印	切っ手 切っ符 消し印	切っ手 切っ符 消し印	
立場	建物	立ち場 建て物	立ち場 建て物	立ち場 建て物	
請負	受取	請け負い 受取り	請け負い 受取り	請け負い 受取り	
書留	踏切	書留め 踏切り 振替え	書き留め 踏み切り 振り替え	書き留め 踏み切り 振り替え	
組合	踏切 振替	組合い 踏み切り 振替え	組合い 踏み切り 振り替え	組合い 踏み切り 振り替え	
割合	割引	割合い 割引	割り合い 割り引き	割り合い 割り引き	
貸付金	借入金	貸付け金 借入れ金	貸し付け金 借り入れ金	貸し付け金 借り入れ金	
繰越金	取扱所	繰越し金 取扱い所	繰り越し金 取り扱い所	繰り越し金 取り扱い所	
積立金	取扱所	積立て金 取扱い所	積み立て金 取り扱い所	積み立て金 取り扱い所	
取締役	取引所	取締り役 取引き所	取り締り役 取引き所	※取り締まり役 取引き所	※印の語は, 含まれる語の活用語尾, または, それにあたる部分から送る。
取次店	取引所	取次ぎ店 取引き所	取り次ぎ店 取引き所	取り次ぎ店 取引き所	
乗換駅	引受人	乗換え駅 引受け人	乗り換え駅 引き受け人	乗り換え駅 引き受け人	
乗組員	見積書	乗組み員 見積り書	乗り組み員 見積り書	乗り組み員 見積り書	
振出人	見積書	振出し人 見積り書	振り出し人 見積り書	振り出し人 見積り書	
待合室	見積書	待合い室 見積り書	待ち合い室 見積り書	待ち合い室 見積り書	
申込書	見積書	申込み書 見積り書	申し込み書 見積り書	申し込み書 見積り書	
浮世絵	小売商	浮き世絵 小売り商	浮き世絵 小売り商	浮き世絵 小売り商	
代金引換	見積書	代金引換え 見積り書	代金引き換え 見積り書	代金引き換え 見積り書	

	告示、通則語例の表記	①	②	③	備考
通則 21	(数詞) 略				活用しない語であるので、この表から除外する。
通則 22	(代名詞) 略				
通則 23 ~ 25	(副詞) 略				
通則 26	絶えず 少なくとも	絶えず 少なくとも	絶えず 少なくとも	絶えず 少なくとも	形容詞「すくない」と関連させて考える。
〔注意〕	打(め)切る 繰(め)返す 差(い)上げる 曇(り) 問(い) 晴(れ) 曇(り) 終(わり) 答(え) 終(わり) 生(まれ) 押(す)	打切る 繰返す 差上げる 曇り 問い 晴れ 曇り 終り 答え 終り 生れ 押す	打ち切る 繰り返す 差し上げる 曇り 問い 晴れ 曇り 終り 答え 終り 生れ 押す	打ち切る 繰り返す 差し上げる 曇り 問い 晴れ 曇り 終り 答え 終り 生まれ 押す	

〔かな-9〕,〔総-15〕 送りがなのつけ方に関する

語の構造別語例一覧

告示「送りがなのつけ方」のまえがきにある3か条の第1の方針、「活用語およびこれを含む語は、その活用語尾を送る。」だけによって送りがなを処理した場合、現行の通則の語例がどのような送りがなになるかを示したものが、前回提出した資料「活用語尾に限定した送りがなについて」〔総-13〕である。

これによって、すでに明らかなように、送りがなは活用語尾を送るという原則だけでは処理しきれないので、品詞別に立てられている現行の通則から離れて、問題別・構造別に語例を集めたこの資料によって、別の観点から、この問題を検討していくこととする。

語 例 一 覧 の 組 み 立 て

単 独 の 語

I 活用する語

- 1 活用語尾を送るだけで、問題がないと思われる語例
- 2 活用語尾以外の部分も、送る必要があるかどうか、検討を要すると思われる語例
 - (1) 他の語の活用語尾、または、それに準ずるものを含むもの
 - (2) 他の語の語幹を含むもの
 - (3) 自他の対応関係にあると思われるもの
 - (4) 接尾語、または、他の語を伴っていると考えられるもの
 - (5) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの
 - ア 現行の通則で、活用語尾の前の音節から送っているもの
 - イ その他、活用語尾の前の音節から、送る傾向があると思われるもの

Ⅱ 活用しない語

1 送りがないをつけないでも、問題がないと思われる語例

2 活用しない語でも、送りがないをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

- (1) 活用語の連用形が、名詞的に用いられるもの
- (2) 活用語の語幹に、「さ・み・げ」などがついて、名詞となったもの
- (3) 活用語を含む副詞・接続詞など
- (4) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの

ア 活用しない語でも、現行の通則で送っているもの

イ その他、本来の名詞であっても、送るかどうか、検討を要するもの

3 活用語尾が考えられても、送るかどうか、検討を要すると思われる語例

- (1) もとは、活用語であっても、現代では名詞と考えられるもの
- (2) 同じ語形であっても、送りがないを書き分けるかどうか、検討を要すると思われるもの
- (3) 表に記入したり、的記号に用いたりするもの

複 合 し た 語

I 活用する語

1 複合語の、おのこの活用語尾を送るかどうか、検討を要すると思われる語例

- (1) 活用語、または、名詞と活用語とが結びついたもの
- (2) 上の語が、接頭語的に用いられていると思われるもの

Ⅱ 活用しない語

1 送りがないをつけないでも、問題がないと思われる語例

2 送りがないをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

ア 現行の通則で送っているもの

イ 現行の通則のただし書きで、送りがないを省いてもよいとしているもの

ウ 現行の通則では、原則として送りがないとされているもの

3 送りがないつけるか、つけないか、判断に迷うと思われる語例

4 同じ語形であっても、送りがない書き分けるかどうか、検討を要する語例

単 独 の 語

I 活用する語

1 活用語尾を送るだけで、問題がないと思われる語例

書く 試みる 受ける 来る 勉強する

赤い 美しい

元気だ

2 活用語尾以外の部分も、送る必要があるかどうか、検討を要すると思われる語例

(1) 他の語の活用語尾、または、それに準ずるものを含むもの

浮	$\left\{ \begin{array}{l} (く) \\ かぶ \\ ぶ \end{array} \right.$	向	$\left\{ \begin{array}{l} (く) \\ かう \\ う \end{array} \right.$	語	$\left\{ \begin{array}{l} (る) \\ らう \\ う \end{array} \right.$	計	$\left\{ \begin{array}{l} (る) \\ らう \\ う \end{array} \right.$
縮	$\left\{ \begin{array}{l} (む) \\ まる \\ る \\ (める) \end{array} \right.$	積	$\left\{ \begin{array}{l} (む) \\ もる \\ る \end{array} \right.$	振	$\left\{ \begin{array}{l} (る) \\ るう \\ う \end{array} \right.$	休	$\left\{ \begin{array}{l} (む) \\ まる \\ る \\ (める) \end{array} \right.$
押	$\left\{ \begin{array}{l} (す) \\ さえる \\ える \end{array} \right.$	捕	$\left\{ \begin{array}{l} (る) \\ らえる \\ える \end{array} \right.$				

勇	$\left\{ \begin{array}{l} (む) \\ ましい \\ しい \end{array} \right.$	輝	$\left\{ \begin{array}{l} (く) \\ かしい \\ しい \end{array} \right.$	頼	$\left\{ \begin{array}{l} (む) \\ もしい \\ しい \end{array} \right.$	恐	$\left\{ \begin{array}{l} (れる) \\ ろしい \\ しい \end{array} \right.$
---	---	---	---	---	---	---	--

疑	{ (う) わしい しい	望	{ (む) ましい しい	好	{ (む) ましい しい	恨	{ (む) めしい しい
---	--------------------	---	--------------------	---	--------------------	---	--------------------

誇	{ (る) らしい しい	紛	{ (れる) らわしい わしい	恥	{ (じる) ずかしい かしい
---	--------------------	---	-----------------------	---	-----------------------

晴	{ (れる) れやかだ やかだ	冷	{ (える) (やす) ややかだ やかだ	伸	{ (びる) びやかだ やかだ
---	-----------------------	---	-------------------------------	---	-----------------------

(2) 他の語の語幹を含むもの

(注) 以下の語例の中には、(4)の接尾語を伴う語と関連のあるものがはいっている。

怪	{ しい しむ	悲	{ しい しむ	卑	{ しい しむ	弱	{ (い) まる (める)
薄	{ (い) まる (める)	確	{ (かだ) かめる	暖	{ (かい) (かだ) まる		

重	{ (い) (んずる) たい	憎	{ (い) (む) らしい たらしい	古	{ (い) (びる) めかしい	厚	{ (い) かましい
細	{ (かだ) かい	柔	{ (らかだ) らかい	愚	{ (かだ) かしい		

清	$\left\{ \begin{array}{l} (い) \\ (める) \\ らかだ \end{array} \right.$	高	$\left\{ \begin{array}{l} (い) \\ (ぶる) \\ らかだ \end{array} \right.$	安	$\left\{ \begin{array}{l} (い) \\ (まる) \\ (める) \\ (んずる) \\ らかだ \end{array} \right.$
---	---	---	---	---	--

(3) 自他の対応関係にあると思われるもの

動	$\left\{ \begin{array}{l} (く) \\ かす \\ す \end{array} \right.$	驚	$\left\{ \begin{array}{l} (く) \\ かす \\ す \end{array} \right.$	働	$\left\{ \begin{array}{l} (く) \\ かす \\ す \end{array} \right.$	励	$\left\{ \begin{array}{l} (む) \\ ます \\ す \end{array} \right.$	及	$\left\{ \begin{array}{l} (ぶ) \\ ぼす \\ す \end{array} \right.$
曇	$\left\{ \begin{array}{l} (る) \\ らす \\ す \end{array} \right.$	果	$\left\{ \begin{array}{l} (てる) \\ たす \\ す \end{array} \right.$	満	$\left\{ \begin{array}{l} (ちる) \\ たす \\ す \end{array} \right.$	暮	$\left\{ \begin{array}{l} (れる) \\ らす \\ す \end{array} \right.$	絶	$\left\{ \begin{array}{l} (える) \\ やす \\ す \end{array} \right.$
燃	$\left\{ \begin{array}{l} (える) \\ やす \\ す \end{array} \right.$	落	$\left\{ \begin{array}{l} (ちる) \\ とす \\ す \end{array} \right.$	尽	$\left\{ \begin{array}{l} (きる) \\ くす \\ す \end{array} \right.$	滅	$\left\{ \begin{array}{l} (ぶ) \\ (びる) \\ ぼす \\ す \end{array} \right.$	終	$\left\{ \begin{array}{l} (える) \\ わる \\ る \end{array} \right.$
変	$\left\{ \begin{array}{l} (える) \\ わる \\ る \end{array} \right.$	伝	$\left\{ \begin{array}{l} (える) \\ わる \\ る \end{array} \right.$	集	$\left\{ \begin{array}{l} (める) \\ まる \\ る \end{array} \right.$	始	$\left\{ \begin{array}{l} (める) \\ まる \\ る \end{array} \right.$	決	$\left\{ \begin{array}{l} (める) \\ まる \\ る \end{array} \right.$
預	$\left\{ \begin{array}{l} (ける) \\ かる \\ る \end{array} \right.$	授	$\left\{ \begin{array}{l} (ける) \\ かる \\ る \end{array} \right.$	助	$\left\{ \begin{array}{l} (ける) \\ かる \\ る \end{array} \right.$	連	$\left\{ \begin{array}{l} (ねる) \\ なる \\ る \end{array} \right.$	生	$\left\{ \begin{array}{l} (む) \\ まれる \\ れる \end{array} \right.$
埋	$\left\{ \begin{array}{l} (める) \\ もれる \\ れる \end{array} \right.$								

(4) 接尾語、または、他の語を伴っていると考えられるもの

(注) 以下の中には、送りがなの審議の対象から除外できると考えられるもの、

および接尾語と認めるのに問題があると思われるものもはいっている。

(づく)	近 — づく	色 — づく	縁 — づく
(のく)	遠 — のく		
(さす)	指 — さす		
(んずる)	重 — んずる	軽 — んずる	(先 — んずる)
(がる)	苦し — がる	広 — がる	群 — がる
(やぐ)	若 — やぐ		
(ぶる)	高 — ぶる	偉 — ぶる	
(ばむ)	黄 — ばむ	汗 — ばむ	気色 — ばむ
(めく)	春 — めく	色 — めく	
(なる)	連 — なる		
(まる)	弱 — まる	静 — まる	

(たい)	平 — たい	重 — たい	冷 — たい
(らしい)	愛 — らしい	憎 — らしい	女 — らしい
(かましい)	厚 — かましい		
(たらしい)	憎 — たらしい		

(げ)	悲し — げ	苦し — げ	
(た)	新 — た		
(か)	静 — か	確 — か	暖 — か
(ら)	平 — ら	赤 — ら	
(らか)	明 — らか	高 — らか	柔 — らか
(やか)	穏 — やか	健 — やか	

(きい)	大 — きい		
(さい)	小 — さい		
(るい)	明 — るい		

(5) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの

ア 現行の通則で、活用語尾の前の音節から送っているもの

表 { わす す	著 { わす す	現 { われる れる	行 { なう う	異 { なる る
脅 { やかす かす す (える)	群 { らがる がる る (れる)	断 { わる る	和 { らぐ ぐ	

明 { かるい るい い (きらか) (らか) (ける)	少 { くない ない い (すこし)	危 { うい い	大 { きい い
	小 { さい い	冷 { たい い	平 { たい い

新 { ただ だ	静 { かだ だ (める)	確 { かだ だ (かめる)	平 { らだ だ (らげる)
穏 { やかだ かだ だ	健 { やかだ かだ だ	明 { きらかだ らかだ かだ だ (ける) (るい)	朗 { らかだ かだ だ

イ その他、活用語尾の前の音節から、送る傾向の見られるもの

(行なう)	商(な)う	失(な)う	占(な)う	補(な)う
償(な)う	伴(な)う			
敬(ま)う	繕(ろ)う	通(よ)う		
促(が)す	任(か)す	侵(か)す		

貫(ぬ)く	働(ら)く	驚(ろ)く		
実(の)る	絞(ぼ)る	上(ぼ)る	悔(ど)る	滞(お)る
憤(お)る				
誤(ま)る	余(ま)る	迫(ま)る	怠(た)る	免(か)れる
偽(わ)る	承(わ)る	回(わ)る		
被(む)る	葬(む)る	翻(え)る		

Ⅱ 活用しない語

1 送りがなをつけないでも、問題がないと思われる語例

月 花 春 弟

2 活用しない語でも、送りがなをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

(1) 活用語の連用形が、名詞的に用いられるもの

(2音) 当て 荒れ 行き 入り 受け 売り 買い 貸し 勝ち
 借り 切れ 悔い 暮れ 刷り 連れ 投げ 果て 振り
 引き 減り 彫り 負け 向き 焼き 酔い 読み 割り

(3音) 遊び 余り 写し 憂い 送り 遅れ 押(さ)え 上(が)り
 教え 踊り 覚え 歩み 泳ぎ 終(わ)り 帰り 飾り
 語り 構え 代(わ)り 聞(こ)え 曇り 暮(ら)し 締(ま)り
 住(ま)い 育ち 作り 続き 勤め 通り 届け 止(ま)り
 直し 流し 流れ 願い 眠り 残り 残し 初め
 控え 参り 曲(が)り 守り 休み 破れ 別れ 笑い

(4音) 商い 味(わ)い 行(な)い 固(ま)り 語(ら)い 企て
 戦い 慰み 始(ま)り 催し 装い 煩い

(2) 活用語の語幹に、「さ・み・げ」などがついて、名詞となったもの

(さ) 重たさ 楽しさ 安らかさ
 (み) 憎しみ 明るみ (げ) 惜しげ

(3) 活用語を含む副詞・接続詞など

少なくとも 大いに 決して 絶えず 初めて 従って
及び 並びに 因って

(4) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの

ア 活用しない語でも、現行の通則で送っているもの

哀れ 後ろ 幸い 互い 半ば 情け 斜め 誉れ 災い

必ず 少し 再び 全く 最も 直ちに 特に 常に

イ その他、本来の名詞であっても、送るかどうかが、検討を要すると思われるもの

(3音) 間 価 値 頭 油 主 ※哀れ 泉 命
※後ろ 器 漆 夫 男 表 面 女 蚕 鏡 形
刀 鎖 鯨 葉 位 車 獣 心 暦 衣 境 桜
姿 ※互い 宝 卵 俵 力 机 堤 鼓 翼 剣
峠 所 ※半ば ※情け ※斜め 鉛 涙 柱 裸
畑 林 東 額 左 羊 袋 仏 炎 ※誉れ 誠
眼 操 緑 港 南 都 昔 娘 盲 基 社 柳
(4音) 曉 礎 妹 公 弟 雷 冠 紅 寿 杯
※幸い 侍 魂 鶏 幻 陵 湖 源 紫 ※災い
(5音) 政 詔

※印の語は、現行で送っているもの。

3 活用語尾が考えられても、送るかどうかが、検討を要すると思われる語例

(1) もとは、活用語であっても、現代では名詞と考えられるもの

頂(き) 帯(び) 趣(き) 畳(み) 隣(り)

(通則16)

卸(し) 組(み) 恋(い) 志(し) 次(ぎ) 富(み)

恥(じ) 話(し) 光(り) 舞(い) 巻(き) 雇(い)
(通則17)

折(り) 狩(り) 肥(え) 問(い) 謡(い) 扇(ぎ)
虞(れ) 係(り) 掛(かり) 煙(り) 氷(り) 答(え)
印(し) 使(い) 包(み) 務(め) 響(き) 祭(り)
病(い)

(第4期, 資料〔正10〕から。)

勝ち 借り 売り 入り 悔い 暮れ 連れ 止め 投げ
引き 彫り 負け 焼き 酔い 割り 写し 踊り
終(わ)り 晴れ 曇り 休み 届け 眠り 守り 控え
戦い 渡し

(2) 同じ語形であっても, 送りがなを書き分けるかどうか, 検討を要すると思われるもの

話しをきく 話しする お話しする	臨時雇い 雇いの人	紅葉狩り 狩りに行く	受付係り 係りの人
問い1 問いを発する	舞いも踊りも	すき焼き 焼きをいれる	明石の巻き 巻きがゆるい
〇〇届け 届けをだす	とりもの控え 控えにはいる	上手投げ 投げをうつ	3割り 割りがわるい
終 終り 終わり	綱引き 引きが強い 親の光りは七光り	二日酔い 酔いがまわる	3年2組み 組みになる

(3) 表に記入したり, 記号的に用いたりするもの

晴(れ) 曇(り) 問(い) 答(え) 終(わり)
生(まれ) 押(す) 引(く) 受(け) 入(り)

複 合 し た 語

I 活用する語

1 複合語で、おのおのの活用語尾を送るかどうかが、検討を要すると思われる語例

(1) 活用語、または、名詞と活用語とが結びついたもの

(1
音)

(見入る 居直る 射落とす 着流す 干上がる)

(2
音)

編み上げる	言い張る	行き当たる	入り乱れる
受け取る	埋め立てる	売り渡す	追い出す
押し寄せる	折り曲げる	買い込む	掛け合う
書き留める	駆け回る	勝ち進む	借り受ける
聞き入れる	切り開く	食い詰める	組み合わせず
締め出す	知り合う	吸い上げる	住み込む
刷り上がる	染め変える	抱き合う	継ぎ合わせず
突き刺す	詰め替える	連れ込む	召し上げる
飛び立つ	泣き叫ぶ	投げ入れる	縫い合わせず
塗り立てる	乗り入れる	恥じ入る	吹き荒れる
巻き上げる	焼き払う	呼び返す	

(3
音)

洗い立てる	痛み入る	移り変わる	恐れ入る
思い付く	語り合う	凍え死ぬ	忍び込む
備え付ける	使い込む	作り直す	通り過ぎる
流し込む	払い出す	届け出る	願い出る
話し合う	丸め込む	紛れ込む	譲り渡す
雇い入れる			

聞き苦しい	待ち遠しい	蒸し暑い	有り難い
情け深い	後ろ暗い	鶯れ高い	

(2) 上の語が、接頭語的に用いられていると思われるもの

打ち切る	打ち合わせる	打ち消す
差し出す	差し止める	差し引く
取り組む	取り消す	取り次ぐ
成り上がる	成り変わる	成り立つ
引き返す	引き出す	引き払う

Ⅲ 活用しない語

1 送りがなをつけないでも、問題がないと思われる語例

山桜 村里 野原 富士川

2 送りがなをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

ア 現行の通則で送っているもの

心構え 物知り 山登り 顔合(わ)せ 風当(た)り
荒削り 大掛(か)り 大向(こ)う 小商い

不入り ほろ酔い

教え子 考え方 続き物 包み紙 入れ墨 捨て身 眠り薬

歩み寄り 見送り 読み書き
埋め合(わ)せ 飼い殺し 取り計(ら)い
行き当(た)り 向(か)い合(わ)せ

負け惜しみ

イ 現行の通則のただし書きで、送りがなを省いてもよいとしているもの

帯止(め) 気持(ち) 綱引(き) 封切(り) 金詰(ま)り
心当(た)り 身代(わ)り 大向(こ)う 編(み)物
受(け)身 掛(け)図 死(に)時 合(わ)せ鏡

打(ち)切り 売(り)出し 落(ち)着き 申(し)込み
 取(り)締(ま)り 果(た)し合い 向(か)い合(わ)せ
 書(き)入れ時 打(ち)合(わ)せ会

ウ 現行の通則では、原則として送りがないとしているもの

献立 座敷 関取 手当 頭取 仲買 場合 番付 日付
 歩合 物語 役割 屋敷 夕立 両替 …係 …割 小包
 植木 織物 係員 切手 切符 消印 立場 建物 請負
 受付 受取 書留 組合 踏切 振替 割合 割引
 貸付金 借入金 繰越金 積立金 取扱所 取締役 取次店
 取引所 乗換駅 乗組員 引受人 振出人 待合室 見積書
 申込書
 浮世絵 小売商 代金引換

3 送りがなをつけるか、つけないか、判断に迷うと思われる語例

受持 打消 討死 埋立地 売上金 追分 書置 書取
 借着 切替 差出人 締切 吸取紙 背負投 立会人
 出入口 煮干 乗合[※] 引揚者 引込線 振付 待合 見舞
 召使 呼出 割増 赤出 天引 留針 泣声 腸詰 刷物
 玉突 飼主 置物 借手 吸口 揚足 駆足 売子 迷子
 跡取娘 打上花火 大入袋 駆落者 気取屋 口止料 髪結業
 手切金 夕焼雲 寄合世帯 掘出物

4 同じ語形であっても、送りがなを書き分けるかどうか、検討を要する語例

（行きはよい
 大阪行き

（受け持ちの先生
 その仕事は、ぼくの受け持ちだ

（受け取りを書く
 受け取りに行く

（受け付けできく
 受け付けを始める

（手当てをもらう
 傷の手当てをする

(踏み切りでの事故

(足の踏み切りに失敗する

(すもうの年寄り

(年寄りをいたわる

(協会の取り締まり (役職)

(取り締まりがきびしい

〔かな-10〕 複合名詞の送りがなについての考え方

1 すべて活用語尾を送る考え方

＜動＋名＞ 編み物，貸し家，組み曲，洗い場，使い道，勤め人
＜名＋動＞ 心持ち，手当て，手続き，心構え，息抜き，命拾い
＜動＋動＞ 受け取り，埋め合わせ，積み立て，忍び泣き，持ち逃げ
＜その他＋動＞ 大詰め，白焼き，小包み，荒削り，ほろ酔い，未払い
＜さらに他の語とつくもの＞ 貸し付け金，乗り換え駅，振り出し人，浮き世絵

2 送る必要のないものを区別する考え方

① 送らない慣用のあるものを区別する考え方

注 総理庁・文部省「公文用語の手びき」（昭和22年），「文部省刊行物 表記の基準」（昭和25年）で送りがなを省いているもの

＜動＋名＞ 編物，貸家，建物，控室，雇主，織物，立場
＜名＋動＞ 心持，手当，手続，日付，物置，夕暮
＜動＋動＞ 受取，請負，積立，取扱，取消，取引，打消，踏切，振替，見舞，
召使，割引
埋合せ，売出し，買入れ，組合せ，繰上げ，引揚げ，差入れ，
乗越し，呼出し
＜その他＋動＞ 大詰，白焼，細引，小売，又貸，小包，未払
＜さらに他の語とつくもの＞ 貸付金，乗換駅，振出人，浮世絵，取締役，
代金引換

② 複合語の前部分の音節数によって送り分ける考え方

——複合語の前部分が2音節のときは，原則として前の語の送りがなを省き，
3音節以上のとき，は原則として省かないとするもの。

＜参 考＞

○ 朝日新聞社「送りがなのつけ方」

「複合語で上の語が3音以上のときは原則として上の語の送りを省かない。」

○ 毎日新聞社「送りがなのつけ方」

「活用語が上にくる複合名詞には、最初の語の送りを省くものと省かないものがある。一般に最初の語が3音節以上のものは、送りを省かないことが多い。」

「最初の語が2音節のときは、原則として省く。」

2音節のもの	
(動+名)	編物 植木 置物 織姫 駆足 枯木 敷石 浮袋 飼犬 入口 引算 化物 乗気 泣声
(動+動)	編上げ, 言残し, 討入り, 打消し, 埋立て, 書込み, 切抜き, 差押え, 刷上がり, 取調べ
3音節のもの	
(動+名)	洗い髪, 移り気, 送り状, 教え子, 帰り道, 隠し芸, 語り物, 勤め先, 通り相場, 流し目, 眠り薬, 登り口, 働き者 (例外: 控室, 雇主, 認印)
(動+動)	洗い張り, 移り変わり, 返り討ち, 覚え書き, 通り抜け, 願い下げ, 走り書き, 放し飼い, 譲り渡し, 忍び泣き (例外: 申込み, 申立て)

3 送りがなを省くことに問題があるものについての検討

① 音読語と区別がつかなくなるもの

(動+名)	
(2音)	生き物(生物) 生け花(生花) 入り用(入用)
	古い松(老松) 落ち葉(落葉) 食べ物・食べ物(食物)
	冷や水(冷水) 見せ物(見物) 焼け土(焼土)
	読み本(読本) 書き物(書物)
(3)	洗い髪(洗髪) 預かり金(預金) 歌い手(歌手)
	通い帳(通帳) 変わり種(変種) 散らし髪(散髪)

音	流れ星（流星）	離れ島（離島）	開き封（開封）
	渡し船（渡船）	笑い話（笑話）	
（動＋動）			
2 音	打ち倒し（打倒）	刺し殺し（刺殺）	
	説き明かし（説明）	〇生き死に（生死）	〇有り無し（有無）
	〇出入り（出入）	〇見聞き（見聞）	〇上げ下げ（上下）
	〇浮き沈み（浮沈）	〇出し入れ（出入）	〇裁ち縫い（裁縫）
3 音	〇飲み食い（飲食）	〇乗り降り（乗降）	〇舞い踊り（舞踊）
	〇読み書き（読書）	〇送り迎え（送迎）	〇貸し借り（貸借）
	譲り渡し（譲渡）		
注　〇印の語は、対語・並列のところで再出。			
（その他＋動）			
	大食い（大食）	大笑い（大笑）	長生き（長生）
（その他）			
	前渡し金（前渡金）		

② 活用のちがいが、わからなくなるもの

＜前要素の場合＞				
売子	食物	当物	入口	決手
{ 売り子	{ 食い物	{ 当て物	{ 入り口	{ 決めて
{ 売れっ子	{ 食べ物	{ 当たり物	{ 入れ口	{ 決まり手
	{ 食わせ物			
取高	引時	抜荷	焼石	割目
{ 取れ高	{ 引け時	{ 抜け荷	{ 焼き石	{ 割り目
{ 取り高	{ 引き時	{ 抜き荷	{ 焼け石	{ 割れ目
混物	折込	切込	立続	
{ 混ぜ物	{ 折り込み	{ 切り込み	{ 立ち続け	
{ 混ざり物	{ 折れ込み	{ 切れ込み	{ 立て続け	
{ 混じり物				

＜あと要素の場合＞

差向	食残	気付	協明 [×]
{差し向き	{食べ残り	{気付き	{協明き
{差し向け	{食べ残し	{気付け	{協明け
{差し向かい			

③ 対語または並列の関係にあるもの

明[○]け暮[○]れ、上[○]げ下[○]げ、行[○]き帰[○]り、浮[○]き沈[○]み、売[○]り買[○]い、起[○]き伏[○]し、
 送[○]り迎[○]え、貸[○]し借[○]り、足[○]し引[○]き、出[○]し入[○]れ、裁[○]ち縫[○]い、積[○]み降[○]ろし、
 伸[○]び縮[○]み、飲[○]み食[○]い、乗[○]り降[○]り、舞[○]い踊[○]り、読[○]み書[○]き、泣[○]き笑[○]い、逃[○]げ隠[○]れ、
 見[○]え隠[○]れ、生[○]き死[○]に、有[○]り無[○]し、抜[○]き差[○]し、受[○]け払[○]い

注 ○印の語は、音読語と区別がつかなくなるもの

4 その他の考え方

① 後ろにつく語の関係から送りがなを規制する考え方

＜参 考＞

- 朝日新聞社「複合名詞のなかには下の語によって上の語の送りを規制することがある。」例：「潮，道，方，物，子」などのつく語。
- 毎日新聞社「下に、『方（方法，やり方の意味），続け，始め，終わり』がつくものは送りを省かない。」

〔潮〕 上げ潮，満ち潮，引き潮

〔道〕 帰り道，戻[×]り道，通[○]り道，回[○]り道，別[○]れ道，抜[○]け道

〔薬〕 眠[○]り薬，飲[○]み薬，下[○]し薬，塗[○]り薬

〔方〕 言[○]い方，話[○]し方，聞[○]き方，考[○]え方，作[○]り方，明[○]け方，暮[○]れ方
 （売[○]方，買[○]方，貸[○]方，借[○]方）

〔物〕 食[○]い物，食[○]べ物，洗[○]い物，干[○]し物，忘[○]れ物，続[○]き物
 （建[○]物，乗[○]物，編[○]物，吸[○]物，呼[○]物，売[○]物，買[○]物，仕[○]立物，掘[○]出物）

〔手〕 話[○]し手，語[○]り手，歌[○]い手，働[○]き手，追[○]っ手，決[○]め手
 （切[○]手，売[○]手，買[○]手，貸[○]手，抜[○]手，行[○]手）

〔目〕 折り目、折れ目、結び目、分け目、引け目、(死目、伏目)

〔口〕 勤め口、売れ口、落ち口、切れ口

(入口、切口、取口)

〔足〕 急ぎ足、勇み足、逃げ足、抜き足、揚げ足、投げ足

(駆足、浮足)

〔分〕 言い分、申し分、取り分(持分)

〔先〕 勤め先、使い先、送り先、(仕入先、行先、真先)

〔子〕 踊り子、申し子、連れ子、乳飲み子、(売子、幼子、迷子、捨子、
振子、鳴子、張子)

〔主〕 救い主、拾い主、落とし主、(売主、貸主、持主、飼主)

㊤ 以上、朝日新聞社の表記。()内は、送りがなをつけないもの。

立ち続け、乗り続け、話し続け、飲み続け [～ 続け]

売り始め、織り始め、泳ぎ始め、書き始め [～ 始め]

書き終わり、言い終わり、読み終わり [～ 終わり]

㊤ 以上、毎日新聞社「送りがなのつけ方」から。

＜備考＞ あとの部分をかな書きにする場合は、告示・朝日・毎日とも、前の部分
の送りを省かないとしている。

置きみやげ、払いもどし、焼きさまし、追いはぎ、酔いどれ、焼けこげ

また、前の語がかな書きの場合の、後ろの語の送りがなの処置も考えられる。

むち打ち、ふた置き、ともえ焼き、すそ回し

② 複合動詞との対応があるかないかによって、送りがなを区別する考え方。

＜名＋動の場合＞

(対応があ
るもの) 意気込み ← 意気込む、義理立て ← 義理立てる、
先走り ← 先走る、手伝い ← 手伝う、旅立ち ← 旅立つ

(対応がないもの)

裏書き	縁結び	金持ち	紙入れ	気持ち	黒塗り
木立ち	猷立て	字引き	関取り	田植え	旅疲れ
腸詰め	手編み	夏休み	名取り	念入り	日帰り
戸締まり	盆踊り	船乗り	万引き	前置き	物笑い
紋付き	役割り	夕立ち	世継ぎ	夜逃げ	楽焼き
輪切り	小包み	未払い	ほろ酔い		
人作り	馬乗り	棒倒し	婦人持ち	ご飯蒸し	

<動+動の場合>

(対応があるもの)

売り出し ← 売り出す	打ち消し ← 打ち消す
勝ち越し ← 勝ち越す	取り扱い ← 取り扱う
取り締まり ← 取り締まる	召し使い ← 召し使う
受け取り ← 受け取る	受け付け ← 受け付ける
寄せ集め ← 寄せ集める	割り当て ← 割り当てる
泊まり込み ← 泊まり込む	見積もり ← 見積もる

(対応がないもの)

売り食い	洗い張り	起き抜け	帯び止め
駆け落ち	食い逃げ	染め抜き	寄せ書き
生き埋め	飢え死に	押し入れ	係り結び
掛け売り	切り張り	暮らし向き	

【かな・11】 語の種類別送りがなのつけ方比較検討表

注 ① 中央の「もとの動詞」に関連ある語を、左右に配列してある。
 ② 語例は、送りがなをすべて送った形で掲げてある。
 ③ ×印は、当用漢字表外、△印は当用漢字音訓表外の漢字を示す。

語の後ろの部分につくもの				語の前の部分につくもの							
複合名詞 動 + ② + 名 その他	複合名詞 名 + ② その他	複合名詞 動 + ②	複合動詞 動 + ②	動詞の 名詞的 用法	語の 種類	もとの 動詞	複合動詞 ② + 動	複合名詞 ② + 動	複合名詞 ② + 名	複合名詞 (対語) (並列)	複合名詞 ② + 動 + 動 ② + 名
前売り制度 小売り商	前売り 小売り	切り売り 投げ売り	叩き売る	売り	五 段	売る	売り出す 売り切れる	→ 売り出し → 売り食い	売り場 売り値	売り買い 売り出し目 売り上げ高	
波打ち際	右打ち 頭打ち	組み打ち 抜き打ち	迎え打つ	打ち		打つ	打ち倒す 打ち出す 打ち消す 打ち合わせる	→ 打ち出し → 打ち消し → 打ち合わせ	打ち身 打ち水		打ち上げ花火 打ち合わせ会
	早い者勝ち 判定勝ち	(休み勝ち)	打ち勝つ 投げ勝つ	勝ち		勝つ	勝ち越す 勝ち取る	→ 勝ち越し → 勝ち越す	勝ち星 勝ち目	勝ち負け 勝ち越し力士 勝ち手口	
手洗い所	水洗い 手洗い	押し洗い すすぎ洗い		洗い	活 用	洗う	洗い落とす 洗い流す	→ 洗い張り → 洗いざらし	洗い粉 洗い場		
召し使い、ベヤ	忍術使い 小使い	召し使い	召し使う	使い	用 動	使う	使い慣れる 使い込む	→ 使い走り → 使い込み	使い道		
受け取り人	月給取り 先取り	受け取り 抜き取り	受け取る 抜き取る	取り	動 詞	取る	取り扱う 取り組む 取り締まる	→ 取り扱い → 取り組み → 取り締まり	取り口 取り分	→ 取り取り	取り越し苦労 取り調べ室 取り締まり役
5人組み制度 取り組み表 番組み側	骨組み、3組み 番組み	取り組み	取り組む	組み	詞	組む	組み替える	→ 組み替え → 組み合い	組み曲 組み長		組み立て体操 組み合い本部

語の後ろの部分につくもの				語の前の部分につくもの					
複合名詞 動名+動名 その他	複合名詞 名+動 その他	複合名詞 動+動	複合動詞 動+動	語の種類	もとの動詞	複合動詞 動+動	複合名詞 動+名	複合名詞 (並列)	複合名詞 動+動
駆け落ち者 その他	都落ち その他	駆け落ち 動+動	流れ落ちる 動+動	落ち	落ちる 動詞	→落ち着く →落ち込む →落ち着き →落ち込み	落ち乗 落ち武者		落ち着き先 落ち隠れ
前借り制度	前借り	押し借り	借り	上 一段活用動詞	借りる	→借り入れ →借り入れ	借り手 借り主	貸し借り	借り入れ金 借り受け契約
早起き会	早起き 朝起き	寝起き	飛び起きる △ 跳ね起きる	起きる	起きる 動詞	起き上がる 起き出す	起き伏し	起き伏し	起き上がりこぼし
袋帯び	付け帯び 結び帯び	帯び(ひ)	帯びる	下 一段活用動詞	帯びる	帯び止め 帯び締め 帯び締め	帯び紐 帯び金		帯び解き姿
引き受け人 借り受け金 安受け合	郵便受け	引き受け 借り受け	受け	受ける	受け付ける 受け持つ	→受け付け →受け持ち →受け答え	受け身 受け太刀	受け渡し	受け付け係り 受け身助動詞 受け持ち教師
絞り染め法	墨染め 型染め	絞り染め	染め	染める	染め直す	→染め直し →染め抜き	染め粉 染め物		染め物屋 染め抜き料
食い逃げ客	夜逃げ	持ち逃げ 食い逃げ	逃げ	逃げる	逃げ出す 逃げ込む	→逃げ込み	逃げ足 逃げ口上		逃げ込み策
吹き寄せ汁	客寄せ	吹き寄せ	寄せ	寄せる	寄せ集める	→寄せ集め →寄せ書き	寄せ算 寄せ木		寄せ木細工
立ち寄り先	右寄り	歩み寄り	寄り	(寄る)	寄り合う 寄り切る	→寄り合い →寄り切り	寄り道		寄り合い世帯

語の後ろの部分についてのも				語の前の部分についてのも							
複合名詞 動名 ^⑨ +動名 ^⑩ その他	複合名詞 名 ^⑨ その他 ^⑩	複合名詞 動 ^⑨ +動 ^⑩	複合動詞 動 ^⑨ +動 ^⑩	動詞の 名詞的 用法	語の種類	もとの 動詞	複合動詞 動 ^⑨ +動 ^⑩	複合名詞 動 ^⑨ +動 ^⑩	複合名詞 動 ^⑨ +動 ^⑩	複合名詞 動 ^⑨ +動 ^⑩	複合名詞 動 ^⑨ +動 ^⑩
質流れ物	川流れ			流れ	下	流れる	流れ込む ^⑨	流れ進り ^⑩	流れ作業 ^⑨ +名 ^⑩ 流れ星		
横流し品	横流し	吹き流し	受け流す	流し	下	(流す)	流し込む ^⑨	→流し込み 流し打ち ^⑩	流し目 流し口		流し込み方式
	休暇届け	願い届け 付け届け	→ 願い届ける	届け	下	届ける	届け出る ^⑨	→届け出 届け済み ^⑩	届け先		届け出人
	年忘れ	書き忘れ	→ 書き忘れる	忘れ	下	忘れる	忘れ去る ^⑨	(忘れ勝ち) ^⑩	忘れ形見 忘れ物		
書き表わし方			書き表わす		活用語尾の前の音節から送るもの	表わす	表わし出す ^⑨		表わし方		
					活用語尾の前の音節から送るもの	著わす					
					活用語尾の前の音節から送るもの	現われ	現われ出す ^⑨	現われ初め ^⑩	現われ方		
					活用語尾の前の音節から送るもの	行ない	行ない渡ります ^⑨	(行ない勝ち) ^⑩			
					活用語尾の前の音節から送るもの	脅かし					
					活用語尾の前の音節から送るもの	異なる	異なり始める ^⑨		異なり語数 ^⑩		異なり語数表
	お断わり			断わり	活用語尾の前の音節から送るもの	断わる			断わり状		
			下し賜わる		活用語尾の前の音節から送るもの	賜わる			賜わり物		
				群がり	活用語尾の前の音節から送るもの	群がる	群がり集う ^⑨				
				和らぎ	活用語尾の前の音節から送るもの	和らぐ	和らぎ始める ^⑨				

語の後ろの部分につくもの				語の前の部分につくもの							
複合名詞 動名 その他	複合名詞 その他	複合名詞 動 +	複合動詞 動 +	動詞の 名詞的 用法	語の 種類	もとの 動詞	複合動詞 ⑨ + 動	複合名詞 ⑨ + 動	複合名詞 ⑨ + 名	複合名詞 (対語) (並列)	複合名詞 動 + 動 ⑨ + 名
					活用語尾(連するもの)を含むもの	浮かぶ	浮かび上がる		浮かれ者		
						浮かれる	浮かれ歩く				
			× 湧き起こる	起こり		起こる	起こり立つ	起こり始め			
	仮住まい	おび住まい		住まい		住まう	住まい始める		住まい場所		
	手向かい	差し向かい	立ち向かう	向かい		向かう	向かい合わせる	→向かい合わせ	向かい側 向かい風		
	お計らい	取り計らい	取り計らう	計らい		計らう	計らい置く				
			むつび語らう	語らい		語らう	語らい合う				
一時預かり所	運用預かり			預かり	二 自他の対応のあるもの	預かる	預かり置く	預かり証			預かり金まい
	お集まり	←	寄り集まる	集まり		集まる	集まり始める	集まり方			
				授かり		授かる		授かり物			
	8時始まり			始まり		始まる	始まり出す				
		←	言い伝わる	伝わり		伝わる	伝わり落ちる	伝わり方			
起き上がりこぼし	× 尻上がり	←	立ち上がる	上がり		上がる	上がり出す	上がり高		上がり下がり	
	大当たり、金当たり	←	突き当たる	当たり		当たる	当たり散らす	当たり狂言		当たり外れ	
割り当て額	△面当て	←	割り当てる	当て		(当てる)	当て込む	当て馬			

語の後ろの部分につくもの				語の前の部分につくもの							
複合名詞 動 + 名 その他	複合名詞 名 + 名 その他	複合名詞 動 + 動	複合動詞 動 + 動	動詞の 名詞的 用法	語の 種類	もとの 動詞	複合動詞 動 + 動	複合名詞 動 + 動	複合名詞 動 + 名	複合名詞 (並列)	複合名詞 動 + 動
	金落とし	見落とし	切り落とす	落とし	（音） 他 の 対 応 の あ る も の	落とす	落とし入れる	落とし込み	落ち込み、落ち物		
	声変わり	移り変わり	移り変わる	変わり		変わる	変わり果てる	変わり映え	変わり種 変わり者		
	本決まり			聞こえ		聞こえる	聞こえ出す	聞こえ初め	聞こえぐあい		
取り縮まり役	戸縮まり	取り縮まり	取り縮まる	縮まり		決まる			決まり文句	縮まり屋	
	素泊まり			泊まり	泊まる	泊まり込む	泊まり込み	泊まり客			
引き伸ばし写真	1日伸ばし	引き伸ばし	引き伸ばす	伸ばし	伸ばす	伸ばし続ける	伸ばし続け				
	七曲がり		折れ曲がる	曲がり	曲がる	曲がりくねる	曲がりくねり	曲がり角			
打ち合わせ会 盛り合わせ料理	員合わせ	打ち合わせ 読み合わせ	打ち合わせる 読み合わせる	合わせ	合わせる			合わせ鏡			
	明治生まれ			生まれ	生まれる	生まれ落ちる	生まれ変わり	生まれ故郷			
揺り動かし方			揺り動かす		動かす	動かし始める	動かし始め	動かし方			
その日暮らし	女暮らし		泣き暮らす	暮らし	暮らす		暮らし向き	暮らし方			
		読み終わり	食べ終わる	終わり	終わる			終わりがち			

語の後ろの部分につくもの				語の前の部分につくもの						
複合名詞 動名+動名 その他	複合名詞 名+動 その他	複合名詞 動+動 動+動	複合動詞 動+動 動+動	動詞の 名詞的 用法	語の 種類	もとの 動詞	複合動詞 動+動	複合名詞 動+動	複合名詞 動+名 (対語列)	複合名詞 動+動 動+動
見積もり書		見積もり ←	降り積もる 見積もる ←	積もり	自他の 対も 応の	積もる 果たす	積もり始める 果たし合う	→積もり始め →果たし合い	積もり貯金 果たし状	
		使い果たし ←	使い果たす							

＜その他の語＞

哀れ	哀れがる, 哀れっぱい
後ろ	後ろ暗い, 前後ろ, 後ろ姿
半ば	[半ば完成する]

情 (め)	情深い(情け深い), 深情(深情け)
答 (め)	答高い(答れ高い)
幸 (い)	幸に(幸いに) [幸, 天気に恵まれ]
互 (い)	互に(互いに), 互違い(互い違い)
斜 (め)	斜に, (斜めに); 斜横断(斜め横断)

短い	手短に(手短かに), 短目(短か目)
近い	身近に(身近かに), 近目(近か目)

〔小 - 1〕

当用漢字表・当用漢字音訓表・送りがなのつけ方・現代かなづかいにおける現行の趣旨、現状、改善意見と予想される問題点

当用漢字表について

〔現行の趣旨〕

- ……これ(わが国において用いられる漢字の数)を制限することは、国民の生活能率をあげ、……(訓令)
- ……日常使用する漢字の範囲を次の表のように定める。(告示)
- 法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したもの。(まえがき)
- 固有名詞については、別に考える。(まえがき)
- この表の漢字で書き表わせない語は(㍿)別のことばにかえる。(イ)かな書きにする。(使用上の注意事項)
- ふりがなは原則として使わない。(使用上の注意事項)
- 専門用語については、この表を基準として、整理することが望ましい。(使用上の注意事項)

〔現 状〕

- 教科書・法令・公用文書・新聞などでは、(㍿)同音の漢字による書きがえ、(イ)まぜ書き、(㍿)かな書き、(㍿)言いかえをし、また、表外字にふりがなをつけて用いている。なお、法令・公用文書でも、[×]藍[×]綬[×]褒[×]章・[×]俸[×]給・[×]参[×]酌・[×]失[×]踪など表外字をふりがなをつけないで用いることもままある。
- 新聞では、いわゆる補正資料によって、当用漢字表を補正して用いている。したがって、当用漢字 1,850 字中、28 字を用いず、表外の 28 字を用いている。

- 教育では教科用図書検定基準によって、小学校では原則として別表の漢字に限り、やむを得ずそれ以外の漢字を用いる場合は、初出の際に読み方を示すことになっている。中学校・高等学校では、原則として当用漢字表の範囲内に限り、やむを得ずそれ以外の漢字を用いる場合には、初出の際に読み方を示すことになっている。
- 雑誌および一般社会(共通の広場)では、必ずしも当用漢字表の範囲でまかなわれていない。

〔改善意見と予想される問題点〕

- (1) 字種の入替え・字数の増(減)を行ない、性格は現行どおりとする。

ア 現行どおり2種の表とする。

イ 適用分野に応じて3種の表を設ける。

＜問題点＞ これまでの経験によって、表記上ぜひともほしい漢字を加えたり入れ替えたりすれば、現在の不便・不自由はある程度解決するであろうが、依然として拘束感が残る。3種の表とすれば使用上不便ではないか。

- (2) 制限的な色彩をゆるめる。

ア 基準(なるべくここに掲げられている漢字でまかなうことを意味するものであり、これ以外の漢字は、どの字でも使用を禁止するものではないがなるべく用いないようにしたいという趣旨。)

＜問題点＞ 表外字の使用は各自の主観にゆだねられるから、全体としては、漢字の無制限使用につながる可能性がある。

イ 一応の基準(漢字の使用をなるべく自由とする趣旨のもので、いわば参考的なものといえよう。)

＜問題点＞ 漢字の無制限使用を助長する傾向となり、かつ、漢字表制定の意義が薄れる。

- (3) 基本度に応じて3種ぐらいの基本漢字表を決める。

＜問題点＞

ア 「基本」という考え方について明確にする必要はないか。

イ できた表を、「範囲」にするか、「基準」にするか、「一応の基準」にするかを決めなければならないのではないか。

ウ かりに決定したとしても、3種の表では使用上の不便はないか。

(4) 適用分野を限定する。

ア ほぼ現行のものを義務教育だけに限定して適用し、他の分野を自由にした場合。

<問題点>

(ア) 一応目にふれさせる程度のものとしても、社会一般が無制限ということであれば、社会に出てから読めない漢字が相当あって困りはしないか。

(イ) 読み書きともに必修させるものとしては学習時間・習得能力からみて不可能であり、やはり別表のようなものが必要となろう。

(ウ) 現に社会に出て活躍している人々にとっても、急に法令・公用文・新聞・雑誌・一般社会での漢字使用が無制限の状態となれば困りはしないか。

(エ) 義務教育期間だけに適用ということになれば、教育的観点を中心として考えるべきであり、教育課程審議会との関連を考慮する必要がある。

イ 教育・法令・公用文だけに限定して適用し、新聞・雑誌・一般社会を適用外とした場合。

<問題点> 適用する分野と、適用外の分野との間で、国語の書き表わし方のずれが大きくなると思われる。

ウ 教育・法令・公用文・新聞・雑誌・一般社会に対して適用する場合。

この場合には、教育・法令・公用文に対しては、「範囲」として適用し、新聞・雑誌・一般社会に対しては、「基準」あるいは「一応の基準」として適用することが考えられる。

<問題点> 「基準」「一応の基準」として適用する分野の積極的な協力が必要である。

当用漢字音訓表について

〔現行の趣旨〕

- 当用漢字表制定の趣旨を徹底させるためには、さらに漢字の音訓を整理することが必要である。(訓令)
- 日常使用する漢字の音訓の範囲を、おおむね次の表のように定める。(告示)
- 各字について、字音と字訓との整理を行い、今後使用する音訓を示したものである。(まえがき)
- ……おおむね……形のみを掲げてあるが、………に使ってさしつかえない。(使用上の注意事項)
- ただし、……名詞の形のみを掲げてあるものは動詞には使わない。(使用上の注意事項)
- つぎのような(音韻の変化・連濁・延音・転音など)熟字は使ってさしつかえない。(使用上の注意事項)

(注：「今日」を「きょう」, 「紅葉」を「もみじ」などのいわゆる熟字訓は認められていない。)

〔現 状〕

- 教科書・法令・公用文では、だいたいこの趣旨によって実施されているが、不注意や気づかずに使われることは絶無ではない。
- 新聞では、「海女」を「あま」、「夏至」を「げし」と読むようなものを慣用表記として積極的に認めているほか、実際の紙面では、音訓はある程度自由に使われている傾向にある。

〔改善意見と予想される問題点〕

- (1) 音訓表そのものを全く廃止する。

＜問題点＞ 全廃した場合は、あまりにも急激な転回であり、従来いられていた読み方の多様性を利用した使い方が行なわれ、読みにくい語表記が行なわれるおそれがある。

- (2) 各字について必要と思われる音訓を追加するとともに、熟字としての特別の読みを認め、あわせて、現在認められている音訓のうち、不要と思われるものを削除する。
- (3) 義務教育期間中に習得させるために必要と思われる音訓を選んで、いわば、音訓別表といったようなものを作る。

送りがなのつけ方

〔現行の趣旨〕

- 現代国語を書き表わすため各行政機関においてよるべき送りがなのつけ方の標準を、次のように定めた。(告示)
- 今後、各行政機関においては、この方針によるものとし、あわせて広く各方面にその趣旨が徹底するように努めることを希望する。(訓令)
- 現代口語文を書く場合の送りがなのつけ方のよりどころを示した。(まえがき)

〔現 状〕

- 1 公用文——告示「送りがなのつけ方」に基づいた「公用文送りがな用例集」によっているが、実際にはかなりの不統一が見られる。
- 2 法 令——告示に準拠して法制局が制定した「法令用語の送りがなのつけ方」によっている。語によっては、告示の許容内で、送りがなを少なくしている。
- 3 教科書——「教科用図書検定基準内規」には、告示に準拠すべきことは掲げられていない。一つの教科書で不統一がなければよいことになるが、実際にはほとんど告示の送り方と一致しているといえる。
- 4 新 聞——統一したものとしては、日本新聞協会編「新聞用語集」の「送りがなのつけ方」がある。これは、おおむね、告示に準拠しているが、語によっては告示以上に多く送っているものがある。それとは別に各社の送りがなの基準があって、ほとんどは告示の範囲内で規定しているが、たとえば、朝日新聞社では、告示とは別に独自の送

りがな（告示よりも少なく送る傾向をもつ。）を用いている。

〔改善についての考え方と予想される問題点〕

- 1 原理原則で一貫した、例外や許容を認めない簡明なものにし、厳密な準則として適用する。

＜問題点＞ 単純な原理原則で一貫した送りがな法を定めることは、これまでの慣用とかけ離れる恐れがあり、その徹底については問題が残る。

- 2 性格は現行どおりの標準とするが、従来の慣用を重んじ、より実情に即したものになるよう、その内容を改善する。

＜問題点＞ (1) 例外や許容が多くなり、複雑でわかりにくいものになる可能性がある。(2) 性格は標準であっても、現実的には拘束される意識が残る、その徹底については問題が残ることが考えられる。

- 3 大まかな原則を示すにとどめ、個々の語の送り方については規定しない。

＜問題点＞ (1) 書き手の拘束される意識は薄らぐ。(2) 社会全般的には送りがなの不統一が見られるようになる。(3) それぞれの分野で、なんらかの措置をとる必要がある。(4) 個々の語の具体的な送り方については判断に迷うことがある。

- 4 いくとおりの送りがなの類型を並列して示し、そのいずれを採るかは、各分野、各機関団体、各個人の判断に任せる。

＜問題点＞ 3の＜問題点＞に同じ。

現代かなづかい

〔現行の趣旨〕

- 現代国語の口語文を書きあらわすかなづかいを、次のように定める。（告示）
- 大体、現代語音にもとづいて、現代語をかなで書きあらわす場合の準則を示したものである。（まえがき）
- 今後各官庁においては、このかなづかいを使用するとともに、広く各方面

にこの使用を勧めて……（訓令）

〔現 状〕

公用文，法令，教科書，新聞ともに，告示「現代かなづかい」に準拠しているが，一部の語の表記にはゆれがある。

〔改善についての考え方と予想される問題点〕

➤ 現代かなづかいの性格や適用分野については，従来あまり問題とされていないので，「内容上の問題点」に限って，諮問が出されている。この内容上の問題点については，具体的に種々考えられるが，これは部会審議の対象と考えられる。

〔小－３〕 国語施策の実施方法について

1 訓令・告示について

(1) 内閣訓令

ア 内閣訓令によって、各官庁を拘束することは、さしつかえないが、広く各方面に使用を勧めて、趣旨の徹底するように努めることを希望することについて問題はないか。

イ たとえ、各官庁に対するものであっても、国語の書き表わし方について、上級官庁が下級官庁に対して指揮することについて問題はないか。

(2) 内閣告示

当用漢字表等は、法令に基づくものでないから、法令的な効力をもつものではない。ただ、現行の文面・内容では、あたかも法令的な効力をもつかのような印象を与えていることに問題はないか。

2 一般社会に対する周知・徹底方法について

(1) 従来どおり、内閣告示によるが、その文面を改め、一般に対して法令的な拘束力をもつかのような印象を与えないようにする方法。

(2) 内閣告示の形式をとらず、閣議決定にとどめる方法。

(3) 内閣告示によらず、文部省告示にする方法。（文面についてはじゅうぶん考慮することは、いうまでもない。）

（注 この場合、文部大臣限りで処置する場合と、閣議了解とか、
閣議申し合わせなどの手続きを経て、処理する場合とがある。）

(4) 文部省告示の形式をとらず、文部大臣の決定にとどめる方法。

(5) 国語審議会の決定だけにとどめる方法。

備考 上記の(2)、(4)、(5)の場合は、適宜な周知方法を講ずるものとする。